

1. 需要予測ヒアリング結果について

(1) ヒアリング実施団体

- ヒアリング調査は、22団体に打診し、20団体から各種需要を把握することができました。

確認すべき事項	対象団体（22団体）	調査結果
スポーツ需要	スポーツ協会団体 2団体	10/23にヒアリング済 10/27にヒアリング済
	厚木市バレーボール協会	アンケート回答済
	厚木市バスケットボール協会	アンケート回答済
	厚木市卓球協会	アンケート回答済
	厚木市バドミントン協会	アンケート回答済
	厚木市ダンススポーツ協会	アンケート回答済
	厚木市ハンドボール協会	アンケート回答済
	大学スポーツ競技団体 1団体	10/24にヒアリング済
コンサート需要	プロスポーツ団体 2団体	10/17にヒアリング済 10/16にヒアリング済
	プロモーター、ホール運営団体 3団体	9/17にヒアリング済 10/29以降で再調整 10/22にヒアリング済み
MICE・観光需要	MICE施設運営団体、観光系団体、地元経済団体 5団体	9/30にヒアリング済 10/7にヒアリング済 10/3にヒアリング済 10/3にヒアリング済 10/6にヒアリング済
その他イベント需要	ニュースポーツ等団体 2団体	業界動向やアリーナに求める一般論を意見集約済み 問い合わせフォームに投稿するも反応なし
参考：アリーナ動向	アリーナ運営団体 1団体	10/7にヒアリング済

(2) 需要予測ヒアリング結果のサマリー | アンケート調査

質問項目	厚木市バレーボール協会	厚木市バスケットボール協会	厚木市卓球協会	厚木市バドミントン協会	厚木市ダンススポーツ協会	厚木市ハンドボール協会
市内における大会・イベント	大会・イベント名 厚木市ソフトバレーフェスティバル	小中バスケットボール大会	厚木オープン（個人戦）卓球大会	厚木市総合選手権バドミントン大会	東町スポーツセンター	リーグH
	参加者数 競技関係者300人/日、観客50人/日	競技関係者250人/日、観客300人/日	競技関係者420人/日、観客30人/日	競技関係者200人/日、観客0人/日	競技関係者700人/日、観客50人/日	競技関係者200人/日、観客800人/日
	実施会場 荻野運動公園体育館	荻野運動公園体育館	荻野運動公園体育館	荻野運動公園体育館	東町スポーツセンター	荻野運動公園体育館
	実施時期 4~5月・2日間/年	夏季・5日間/年	10月・1日間/年	7月・1日間/年	10月・2日間/年	10月~3月・2~4日間/年
	利用面数 ソフトバレーコート12面	バスケットボールコート2面（3面が理想的）	卓球台42台	バドミントンコート 14面	バスケットボールコート 1面	ハンドボールコート1面 20m×40m
	大型バスの総台数	利用なし	利用なし	200台（普通車）	利用なし	3台
実施会場の課題	映像装置が整っていない 飲食出店スペースが少ない	音響設備が整っていない	音響設備が整っていない 照明設備が整っていない		観戦環境が整っていない 吊りフックが整っていない トイレの数が少ない	音響設備・照明設備・映像装置・吊りフック・Wi-Fi環境・更衣室設備が整っていない、飲食出店スペースが少ない、駅から遠い
市外における大会・イベント	大会・イベント名 -	-	K2リーグ	協会対抗バドミントン大会	-	-
	参加者数 -	-	競技関係者500人/日、観客100人/日	競技関係者200人/日、観客0人/日	-	-
	実施会場 -	-	横浜武道館	県立スポーツセンター2（善行）	-	-
	実施時期 -	-	毎月・12回/年	8月・1日間/年	-	-
	利用面数 -	-	卓球台60台	46.1m×50m	-	-
	大型バスの総台数 -	-	利用なし	利用なし	-	-
	会場の特徴 -	-	空調設備が整っている 照明設備が整っている	-	-	-
新アリーナの需要	大会・イベント名 -	-	-	-	厚木市ダンススポーツ大会	-
	参加者数 -	-	-	-	約750名	-
	実施会場 -	-	-	-	東町スポーツセンター	-
	実施時期 -	-	-	-	10月・2日間/年	-
	利用面数 -	-	-	-	バスケットボールコート 1面	-
	大型バスの総台数 -	-	-	-	利用なし	-

参考 | ヒアリング事項

- 厚木市（以下、「本市」とします）が整備を計画している多目的アリーナ事業に対し、本事業に対する関心度、業界の動向、導入を希望する諸室・機能等についてのご意見をお伺いしたく存じます。

調査項目	設問内容
関心度	<ul style="list-style-type: none">本施設に対する関心度
業界の動向	<ul style="list-style-type: none">3,000～5,000人収容のアリーナ施設における興行・イベント需要の状況や見込み一般的に設営撤去時に搬出入する大型トラックの車両総重量と台数（駐車台数）
需要獲得の条件	<ul style="list-style-type: none">誘客促進又は需要を獲得するための条件施設運営体制における条件（予約時期・利用調整等）
導入を希望する諸室・機能	<ul style="list-style-type: none">利用時における理想的または適切なスペース（メインアリーナのフロア面積等）利用に必要な設備や諸室（大型ビジョン、音響照明設備、Wi-Fi環境、会議室、応接室、その他）
本計画に対するアイデア	<ul style="list-style-type: none">本計画を取り巻く動向や本市の立地等も踏まえ、検討すべき事項やアイデアの内容

(2) 需要予測ヒアリング結果のサマリー | ヒアリング調査 (プロスポーツ・その他イベント需要)

調査項目	主な意見
関心度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一 ・ 集客が出来ているeスポーツの大会としては、<u>さいたまスーパーアリーナで6,000人程度を集客した等、数えるほど</u>しかない。集客出来ているイベントに関しては、純粋な大会というよりも、有名人同士の対戦を観に来るといったエンタメ要素が強いものが多いという印象である。
業界の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハンドボールでは、新たな取組として若手中心のチャレンジゲームズという大会があり、厚木開催の可能性がある。 ・ レギュラーシーズン以外のイベントとしては、ハンドボールやその他スポーツの教室・イベントの開催をしたことはある。 ・ Tリーグは、現在<u>日本のトップ選手をそろえても収容人数は2,500人程度</u>である。 ・ 収容人数について、<u>Bプレミアの事情とコンサート興行を考慮すると5,000人以上だが、他のスポーツでは3,000人程度が妥当</u>である。
需要獲得の条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ eスポーツのイベントを開催する場合、<u>他のスポーツやテレビ観戦では味わえないライブ感が必要</u>となるが、eスポーツに関しては、現地であっても配信であっても来場者が観るのはビジョンであり、ライブ観戦する体験価値が弱い。その点は他のスポーツよりも工夫が求められる。 ・ Hリーグは、<u>レギュラーシーズンの試合数が増えれば厚木開催の日数を増やすことができる</u>。収益性の観点から試合数の増加が望ましい。 ・ Tリーグは、立地面で劣ることから<u>厚木市での開催は4試合程度に留まる</u>もとの考える。 ・ 厚木市でアリーナができると、<u>周辺地域でBリーグのレギュレーションを満たすアリーナが無いため、ホームアリーナに指定されやすい</u>。ホームアリーナとした場合、ホームゲームを年間試合数の60%を開催することになる。 ・ 施設使用料の価格設定も横浜BUNTAI以上は難しいと料する。 ・ Bリーグでは、トップリーグより下のリーグでは、入場者収入よりスポンサー収入が大事で、スポンサーは観客席の空席を嫌う。5,000人規模の場合、3,000人規模に客席を暗幕等で仕切ることや覆うような設えができると好ましい。
導入を希望する諸室・機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハンドボールの試合が開催できるコート面積を確保してもらいたい。また、<u>ゴール裏に座席を配置するのであれば防球ネットが必要</u>になる。 ・ <u>劇場型の観客席配置は、観客席とカメラの方向が同じであるため、演出の観点から好ましい</u>。一方、<u>試合の観戦環境の観点からはアリーナを囲んだ観客席配置が良い。</u> ・ アリーナ部分は試合が見やすい可動席を配置し、<u>Bリーグの試合時はアリーナ面積を小さくできる形が好ましい</u>。 ・ <u>バスケットコートの仕様であれば、eスポーツは開催可能</u>である。例として、オープンハウスアリーナ太田はeスポーツイベント開催に適したアリーナである。 ・ Hリーグでは、ホスピタリティサービスに関する方針やルールは無く、クラブが独自で行っている状況である。例えば、<u>企業関係者をVIP招待して試合開催</u>することも考えられる。
本計画に対するアイデア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単なるハコの用意ではなく、一段視座を上げて、<u>「自治体のデジタルリテラシーを上げる」という枠組で施設のあり方を考えてもらえるとより良い施設づくりにつながる</u>のではないか。 ・ Hリーグでは、競技人口の増加について、中高生の育成が進んでおり、ハンドボールの街になりつつある事例もある。 ・ <u>計画段階からコンセプトメイキングを重要して、この場所をどうするかを考える必要がある</u>。飛び道具的なコンテンツでは長続きしないため、文化として根付くものを育てなければならない。

(2) 需要予測ヒアリング結果のサマリー | ヒアリング調査（アマチュアスポーツ需要）

調査項目	主な意見
関心度	<ul style="list-style-type: none"> 本事業については好感を持っている。一方、日本においてはスポーツを觀ることにお金をかけるといった習慣がないことに課題感を感じている。Bリーグにおいて「する」だけではなく「みる」スポーツの要素が強い企画が実施され始めていることもあり、大学スポーツにおいても同様に流れを作りたいと考えている。 アリーナ施設が使えるのであれば使いたいが、市内において、これまで興行的な規模の大きいイベントを行ったことはない。
業界の動向	<ul style="list-style-type: none"> 県内の大きな大会としては、国民スポーツ大会の関東大会が8年に1度ある。その他には、インターハイ、中学校の大会が行われるが、県のスポーツ課が主催している。ただし、国民スポーツ大会はアマチュアスポーツであり、観客を入れることより競技をすることが重視されている。 競技大会に参加する参加者は団体バスではなく、自家用車で来る人が多い。 大学バスケットボールは、全国大会を年2回（インカレ及び全国新人大会）開催しているほか、1年おきに日韓戦（定期戦）を実施している。インカレは、一定レベル以上の試合についてはアリーナ施設を活用しており、Bリーグチームがアリーナを整備していることも踏まえ、今後も地方含め全国で大会を開催していきたいと考えている。 強豪校になると、試合に出られない部員が多数存在する。そのような選手のためにデベロップメント（育成）リーグを立ち上げし、参加する部員向けに、1年生時から企業の支援も受けた就職セミナーを運営している。 荻野運動公園体育館に相撲の巡業が来たことがある。 Vリーグ入りを目指す地元のバレーボールの実業団が存在する。
需要獲得の条件	<ul style="list-style-type: none"> 県内にアマチュアが利用するアリーナ施設は、団体から意見を聞くと充実しておらず、取りにくくと聞いている。主な理由は料金であり、プロチームが使うような大型アリーナは利用料が高いようである。 大学スポーツはアマチュアであり、高額の使用料金は払えない。アリーナ施設で大会を開催する場合は、自治体や企業からの援助を受け、施設を借り受けている状況である。 厚木市内の体育館としては荻野運動公園体育館しかないように加え、本厚木駅からのアクセスが悪く、使い勝手が悪いのがネックである。 駅近の体育館については、誘客やアクセス面でメリットがあるものの、倍率及び使用料が高いのがネックである。 各大学ともに平日は授業のため、イベントや大会は土日開催が中心となるが、夏休み期間は平日での開催も可能である。 厚木市周辺には、バリアフリーが充実した施設がないため、十分なバリアフリー性能を備えることで、障がい者スポーツのイベントで使える可能性がある。 プロレスは、熱心な市民や厚木市出身の選手もあり、集客力があり、需要がある可能性がある。厚木市内で定期的にイベントを開催している。荻野運動公園体育館で開催した際には、参加者から遠いと意見があった。
導入を希望する諸室・機能	<ul style="list-style-type: none"> 大学スポーツでは、看板掲出に加え、コート上にシールの貼付を行ったり、デジタルサイネージに映像上映等が実施されている。 Bリーグ仕様のアリーナ施設であれば大学スポーツの大会開催には支障ない。
本計画に対するアイデア	<ul style="list-style-type: none"> 神奈川県は様々な競技団体と協定を結び、イベントの誘致を行っている。 厚木市は立地としては十分可能性がある。ただ、「聖地化」には時間がかかるのではないか。「この体育館はこの競技を中心開催する」といった調整が各協会で出来ると良いが、実際は各協会で体育館を取り合っているのが現状であり、聖地化するには至っていない。 eスポーツの大会を開催できる可能性もある。市内の大学がeスポーツに熱心な他、市内に工場のある企業もeスポーツには前向きだと思う。 市内では、オリンピアン等の有名選手を呼んだスポーツ教室を、市からの補助金を活用して行っている。現在、入場料は無料だが、飲食店を展開すれば一定の収益は見込めると思料する。

(2) 需要予測ヒアリング結果のサマリー | ヒアリング調査（コンサート需要）

調査項目	主な意見
関心度	<ul style="list-style-type: none"> 具体的なアイデアはないが、例えば、<u>市民文化祭のようなイベントを文化会館と多目的アリーナで同時開催することでまちを盛り上げるような連携方法</u>は考えられる。
業界の動向	<ul style="list-style-type: none"> イベント興行を行う場合、キャパシティを最も重要視する。具体的には、<u>収益性の観点から10,000人が収容できる施設がベンチマーク</u>となる。キャパシティが200人違えば、チケット代8,000円／人として160万円違う。小規模な会場であれば160万円で会場料金が払えてしまうくらい収入が変わる。 <u>他方で10,000人を集客できるアーティストは限られている。</u> コンサートツアーをする場合、チケット料金は均等にしたく、収益性を他の施設と揃える必要がある。 厚木市文化会館は、<u>比較的都心から近いこと、高速道路のICから近いこと、駐車場が大きいこと</u>等から、プロモーターから使いやすいと評価されていると考えている。初日公演に利用されることも多い。 コンサートは基本、土日祝に開催するが、平日を開催することもある。<u>厚木市は都心に近いので、夕方開演ができ、平日開催は比較的多いと思料</u>する。 アイドルや声優等のファンイベントは厚木市文化会館でも少しずつ増えている。
需要獲得の条件	<ul style="list-style-type: none"> 多目的になる場合、設備設置は控えめになるので、コストが下がる。 <u>スポーツの殿堂として、コンサートにも使える、という位置づけも選択肢</u>である。 イマーシブな映像体験ができるような設備を設置し、<u>チャレンジしたいアーティストの登竜門のような位置づけ</u>を目指してもよい。<u>プロジェクトマッピングが投影できる壁面</u>であれば、液晶画面の設置は不要である。プロジェクトマッピングを考慮すると、アリーナ形状はオーバル型でない方が良い。 コンサート興行の舞台装置等について、全国的に5,000人規模のアリーナが整備されると、<u>5,000人アリーナのための規格化が進む可能性はある</u>が、すぐにその潮流が起こるかは予想できない。 <u>施設使用料や使いやすさ、最新の音響設備等を備えることで、コンサートを誘致できる可能性がある</u>が、現時点で3,000～5,000人規模の需要は未知数である。
導入を希望する諸室・機能	<ul style="list-style-type: none"> 近年、人手不足により、設営撤去の負荷がなるべくからない施設又は設えであることが望ましい。具体的には、<u>アリーナ空間まで車両が搬出入できること</u>や、<u>吊り金具の耐荷重があること</u>が挙げられる。搬出入、吊モノ対応、見やすい座席があれば、他は特に必要なく何も無いほうが使いやすい。 音響設備はアーティスト側が持ち込むことが一般的である。
本計画に対するアイデア	<ul style="list-style-type: none"> ここでしか見られないものと、ここでも見られるものを分析する必要がある。 <u>プロスポーツかコンサートか、どちらかに寄った施設がよい</u>と考える。中途半端な施設ではどちらの需要も取り込めない。また、目玉となる特徴があるとよいと考える。

(2) 需要予測ヒアリング結果のサマリー | ヒアリング調査 (MICE・観光需要)

調査項目	主な意見
関心度	<ul style="list-style-type: none"> 「<u>地域スポーツブランドをつくっていく</u>」といった事業方針を策定しており、市に関係のあるチームが存在するバスケット、サッカー、ソフトボール等への支援に向けた動きを開始することとしている。 アリーナへの投資、または事業者として参画意思を示す可能性について、商工会の構成員からも地域のスポーツブランドを高めたいという声が聞かれていたため、<u>参画の意思を示す企業は存在することが想定</u>される。
業界の動向	<ul style="list-style-type: none"> MICEは、<u>B to Cの展示会は土日</u>が多い。<u>B to Bの展示会は平日開催</u>とするケースもある。例として、80社が出展する場合、各社3台分の駐車スペースを確保するとして、出展者だけで240台分の駐車スペースが求められる。 市内に多くのスポーツ施設はあるものの、スペックとして<u>公式戦開催には至らないのが現状</u>である。 事業への参画意欲が旺盛な民間事業者について、具体的な企業名は現時点では思いつかない。<u>事業への参画形態としては、スポンサー又は看板掲出</u>をするといったやり方を想定する事業者が多いのではないか。
需要獲得の条件	<ul style="list-style-type: none"> アリーナ部分に直接車が進入できるのであれば、<u>市民向けのイベント（キャンピングカーや自動車の展示会等）が開催可能</u>である。 事業者としては、<u>プロスポーツ興行が稼働率の基盤になるため、ホームアリーナとするチームが無いと収益性の観点から難しい</u>。また、<u>軸がプロスポーツだけでは、収益性の高いビジネスへの展開は難しい</u>が、少なくとも公益的に価値のある事業を展開することは可能である。例えば、プロチームの下部組織の大会や、地域スポーツのイベントを開催して、試合のない日の稼働を埋めることができる。 MICEは、<u>小田急線沿線に使い勝手の良いMICE施設はあまりない</u>ので、スポーツに寄りすぎず、平土間で天井高の高い施設とすると、重宝する可能性がある。 <u>ファミリー層の日常の活動拠点としての需要がある可能性がある</u>が、それをどうコンテンツにするかは要検討である。 市民や来街者から「この場所に来れば何かが行われている」と認知されるようなエリアになれば良い。その点でいえば、<u>特定の分野にこだわらず、フレキシブルなコンテンツを提供できる運営事業者の参画</u>が期待される。 アリーナで行うイベントに絡めて、<u>地酒やご当地の食品を使ったイベントなどを開催</u>する等はあり得ると思う。
導入を希望する諸室・機能	<ul style="list-style-type: none"> ハード面では、アリーナだけではなく、<u>屋外に広かれた空間や設備があることが重要</u>である。ソフト面では、<u>DMOのような県と連携してイベントができるような座組や組織が設置</u>されていると、民間事業者だけでは難しいような県西・県央の広域的な観光振興のイベントの開催も可能である。 あつぎ鮎まつりにおいては企業向けにシートを販売している。同様のスキームを採用することで、<u>アリーナが社交場として機能する可能性</u>はある。 あつぎ鮎まつりは、市外からも来場者が来ている。暑さ対策が課題である。<u>雨の心配もないのであれば、アリーナを何らかの方法で活用できる</u>とありがたいと思う。
本計画に対するアイデア	<ul style="list-style-type: none"> 賑わい創出を目指すのであれば、<u>エリアマネジメントの観点で事業を構築し、核となるコンテンツを盛り上げることが重要</u>である。 アリーナを活用した観光事業のアイデアとしては、<u>アリーナと屋外広場でアウトドアブランドのキャンプ用品のフェアを開催し、そのままバスで山間部に向かいキャンプをするといったイベント</u>が考えられる。厚木市の地理的特徴や子育て支援に注力していることにも合致している。ただし、<u>年間にできる回数は限られており、収益性も低いため、公益的な事業としての展開</u>となる。 アリーナだけを考えるのでなく、<u>丹沢山系への入り口となるような仕掛け</u>をすることで新たなビジネスチャンスも生まれるのではないか。

(3) 得られた意見を踏まえた各需要の見込み（スポーツ需要）

- 需要予測ヒアリング結果を踏まえ、各需要の見込みを整理しました。

項目	主な意見	需要の見込み
プロスポーツ・その他イベント需要の想定	<ul style="list-style-type: none">厚木市でアリーナができると、周辺地域でBリーグのレギュレーションを満たすアリーナが無いため、ホームアリーナに指定されやすい。ホームアリーナとした場合、ホームゲームを年間試合数の60%を開催することになる。Tリーグは、立地面で劣ることから厚木市での開催は4試合程度に留まるものと考える。Hリーグは、レギュラーシーズンの試合数が増えれば厚木開催の日数を増やすことができる。収益性の観点から試合数の増加が望ましい。eスポーツのイベントを開催する場合、他のスポーツやテレビ観戦では味わえないライブ感が必要となるが、eスポーツに関しては、現地であっても配信であっても来場者が観るのはビジョンであり、ライブ観戦する体験価値が弱い。その点は他のスポーツよりも工夫が求められる。Vリーグ入りを目指す地元のバレーボールの実業団が存在する。	<ul style="list-style-type: none">Bリーグのレギュレーションを見たす収容人数にすることでホームアリーナとして指定され、ホームゲームの開催日数を取り込むことが可能である。Tリーグは、立地条件からシーズンの部分的な開催日数を見込むことが可能である。Hリーグは、レギュラーシーズンの試合数が増えれば開催日数を増やすことが可能である。eスポーツは、バスケットコートの仕様であれば、eスポーツは開催可能であるが、体験価値の点において課題がある。Vリーグのレギュレーションを見たす収容人数にすることでホームアリーナとして指定され、ホームゲームの開催日数を取り込むことが可能である。
アマチュアスポーツ需要の想定	<ul style="list-style-type: none">大学バスケットボールは、全国大会を年2回（インカレ及び全国新入大会）開催しているほか、1年おきに日韓戦（定期戦）を実施している。インカレは、一定レベル以上の試合についてはアリーナ施設を活用しており、Bリーグチームがアリーナを整備していることも踏まえ、今後も地方含め全国で大会を開催していきたいと考えている。デベロップメント（育成）リーグを立ち上げし、参加する部員向けに、1年生時から企業の支援も受けた就職セミナーを運営している。各大学ともに平日は授業のため、イベントや大会は土日開催が中心となるが、夏休み期間は平日での開催も可能である。厚木市は立地としては十分可能性がある。プロレスは、熱心な市民や市出身の選手もあり、集客力があり、需要がある可能性がある。厚木市周辺には、バリアフリーが充実した施設がないため、十分なバリアフリー性能を備えることで、障がい者スポーツのイベントで使える可能性がある。	<ul style="list-style-type: none">予約調整や施設使用料によって、大学スポーツは、全国大会規模の場合、準決勝試合からの開催や夏の平日開催の需要を取り込むことが期待できる。デベロップメント（育成）リーグは地元企業との連携によりコンテンツ開発できる可能性がある。立地面で利便性のある当該地では、プロレス等のイベント興行の需要が期待できる。バリアフリー性能を備えることで、パラスポーツイベントの需要が期待できる。

(3) 得られた意見を踏まえた各需要の見込み（コンサート・MICE需要）

- 需要予測ヒアリング結果を踏まえ、各需要の見込みを整理しました。

項目	主な意見	需要の見込み
コンサート 需要の想定	<ul style="list-style-type: none">厚木市文化会館は、比較的都心から近いこと、高速道路のICから近いこと、駐車場が大きいこと等から、プロモーターから使いやすいと評価されていると考えている。初日公演に利用されることも多い。コンサート興行の舞台装置等について、全国的に5,000人規模のアリーナが整備されると、5,000人アリーナのための規格化が進む可能性はあるが、すぐにその潮流が起こるかは予想できない。施設使用料や使いやすさ、最新の音響設備等を備えることで、コンサートを誘致できる可能性があるが、現時点では3,000～5,000人規模の需要は未知数である。	<ul style="list-style-type: none">2,000人以下のコンサート興行は好調であるが、5,000人規模のアリーナは事例が少なく、需要が未知数である。他方で、競合分析を行い、<u>戦略的な施設使用料の設定やここでしか体験できない設備等を備えること</u>でコンサート需要を見込むことが出来る可能性もある。
MICE・観光 需要の想定	<ul style="list-style-type: none">MICEは、小田急線沿線に使い勝手の良いMICE施設はあまりないので、スポーツに寄りすぎず、平土間で天井高の高い施設とすると、重宝する可能性がある。ファミリー層の日常の活動拠点としての需要がある可能性があるが、それをどうコンテンツにするかは要検討である。アリーナで行うイベントに絡めて、地酒やご当地の食品を使ったイベントなどを開催する等はあり得ると思う。アリーナを活用した観光事業のアイデアとしては、アリーナと屋外広場でアウトドアブランドのキャンプ用品のフェアを開催し、そのままバスで山間部に向かいキャンプをするといったイベントが考えられる。	<ul style="list-style-type: none">土間コンクリートのアリーナ床仕様にすることやアリーナ部分まで車両が乗り入れできる設えにすることで、<u>MICE需要も取り込むことが出来る可能性</u>がある。<u>ファミリー層をターゲットにしたイベント開催</u>の可能性がある。アリーナと屋外広場（厚木中央公園）を使っていつも<u>何かのイベントが開催されているエリアとして認知されること</u>でまちの回遊性や集客力を高めることができる。

(4) その他、得られた示唆

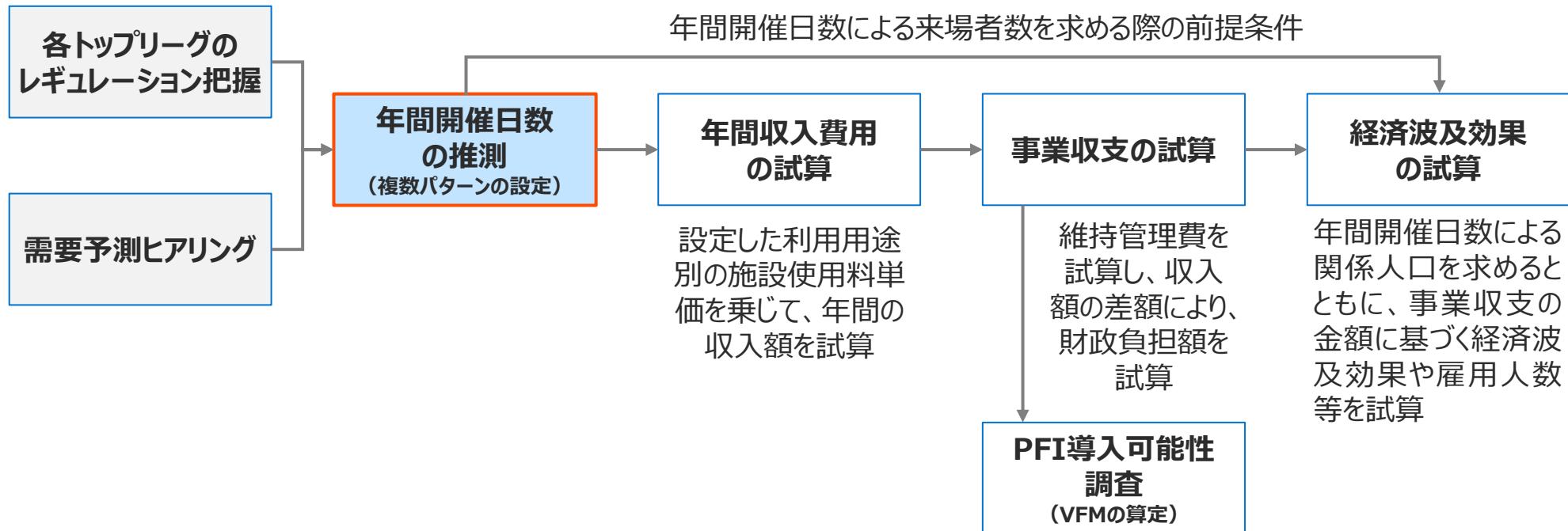
- 需要予測ヒアリング結果を踏まえ、得られた示唆を整理しました。

項目	主な意見	示唆
収益性の確保	<ul style="list-style-type: none">企業関係者をVIP招待して試合開催することも考えられる。事業者としては、プロスポーツ興行が稼働率の基盤になるため、ホームアリーナとするチームが無いと収益性の観点から課題がある。また、軸がプロスポーツだけでは、収益性の高いビジネスへの展開は難しい。	<ul style="list-style-type: none">スポーツクラブの<u>スポンサー企業を巻き込むことが重要</u>である。収益化を確保できる事業にしていくためには、<u>スポーツクラブ等の誘致方針が必要</u>となる。このことは、<u>多様な収益事業の展開を可能とするコンセッションにおいても重要なポイント</u>になる。
まちづくりとの連携、コンテンツの創出	<ul style="list-style-type: none">Hリーグでは、競技人口の増加について、中高生の育成が進んでおり、ハンドボールの街になりつつある事例もある。賑わい創出を目指すのであれば、エリアマネジメントの観点で事業を構築し、核となるコンテンツを盛り上げることが重要。計画段階からコンセプトメイキングを重要して、この場所をどうするかを考える必要がある。飛び道具的なコンテンツでは長続きしないため、文化として根付くものを育てなければならない。具体的なアイデアはないが、例えば、市民文化祭のようなイベントを文化会館と多目的アリーナで同時開催することでまちを盛り上げるような連携方法は考えられる。アリーナだけを考えるのではなく、丹沢山系への入り口となるような仕掛けをすることで新たなビジネスチャンスも生まれるのではないか。神奈川県は様々な競技団体と協定を結び、イベントの誘致を行っている。	<ul style="list-style-type: none">現時点で多目的アリーナを拠点とするコンテンツがないため、<u>どのようにコンテンツを創出していくかの仕組みづくりをしていく必要</u>がある。スポーツにおいては、<u>競技人口を増やすための施策展開も有効</u>である。市内のイベント連携や観光への展開等、<u>多様なプレーヤーとの連携体制を構築する必要</u>がある。コンテンツを育てていくために、<u>エリアマネジメントをアリーナ事業と連動することが必要</u>となる。<u>官民連携による誘致活動も有効</u>である。
厚木中央公園との連携	<ul style="list-style-type: none">賑わい創出を目指すのであれば、エリアマネジメントの観点で事業を構築し、核となるコンテンツを盛り上げることが重要である。厚木中央公園の収益でアリーナの運営費を賄えるとは考えていないものの、公園についてはPark-PFIのような形態とし、アリーナの事業とは別方式で事業を展開できるのであれば参画の可能性はある。ハード面では、アリーナだけではなく、屋外に開かれた空間や設備があることが重要である。	<ul style="list-style-type: none"><u>エリアマネジメントが展開できる実施体制も検討する必要</u>がある。賑わい創出に向けては、アリーナだけでなく、<u>厚木中央公園との連携</u>が必要となる。多様な利用者層への取り込みには、<u>多様な事業や空間展開ができる環境が必要</u>になる。

2. ヒアリング結果を踏まえた需要予測について

(1) 利用日数の想定 | 検討の位置づけ

- 各トップリーグのレギュレーションや需要予測ヒアリング調査結果等を踏まえて、アリーナで想定される利用用途別の開催日数を設定します。
- 年間開催日数を設定することで、事業収支（財政負担額）や経済波及効果の前提条件にも利用されるものとなります。



(1) 利用日数の想定 | 各パターン設定の考え方

- 利用日数の想定について、保守的に日数計上したパターンから積極的に日数計上したパターンまで3つのパターンを設定しました。

	パターン		①保守パターン	②中庸パターン	③積極パターン
興行 イベント	プロスポーツ 利用	本番日	<ul style="list-style-type: none"> 現在市内で開催されている利用 (Bリーグ4試合、Tリーグ4試合、 Hリーグ1試合) 	<ul style="list-style-type: none"> Bリーグ及びVリーグによるホームアリーナ利用 (B.Nextクラブ15試合、Vリーグ8試合) TリーグとHリーグの地方開催 (Tリーグ4試合、Hリーグ1試合) 	<ul style="list-style-type: none"> Bリーグ及びSVリーグによるホームアリーナ利用 (B.Premierクラブ25試合、SVリーグ16試合) TリーグとHリーグの地方開催 (Tリーグ4試合、Hリーグ1試合)
		準備日	本番日の前後で+1日計上	本番日の前後で+1日計上	本番日の前後で+1日計上
	ライブエンタメ 利用	本番日	<ul style="list-style-type: none"> 全国2,500～5,000人規模におけるアリーナ・体育館におけるライブエンタメ実績値の中央値(2日) 	<ul style="list-style-type: none"> 全国2,500～5,000人規模におけるアリーナ・体育館におけるライブエンタメ実績値の平均値(4日) 	<ul style="list-style-type: none"> 全国2,500～5,000人規模におけるアリーナ・体育館におけるライブエンタメ実績値の最大利用施設の1/2値(9日)
		準備日	本番日の前後で+1日計上	本番日の前後で+1日計上	本番日の前後で+1日計上
	その他、MICE等 利用	本番日	<ul style="list-style-type: none"> 市民向けの展示会、企業展、就職セミナー等 	<ul style="list-style-type: none"> 市民向けの展示会、企業展、就職セミナー等 	<ul style="list-style-type: none"> 市民向けの展示会、企業展、就職セミナー等
		準備日	本番日の+前後で+1日計上	本番日の前後で+1日計上	本番日の前後で+1日計上
非興行 イベント	アマチュア文化 利用	本番日	<ul style="list-style-type: none"> 成人式、既存文化系FES等 	<ul style="list-style-type: none"> 成人式、既存文化系FES等 	<ul style="list-style-type: none"> 成人式、既存文化系FES等
	アマチュアスポーツ 利用	本番日	<ul style="list-style-type: none"> 大学スポーツ（全国大会や育成リーグ等）プロレス、パラスポーツ等 	<ul style="list-style-type: none"> 大学スポーツ（全国大会や育成リーグ等）プロレス、パラスポーツ等 	<ul style="list-style-type: none"> 大学スポーツ（全国大会や育成リーグ等）プロレス、パラスポーツ等
		準備日	本番日の前で+1日計上	本番日の前で+1日計上	本番日の前で+1日計上
土日祝における比率 (興行イベント：非興行イベント)		2 : 8	5 : 5	8 : 2	

参考 | スポーツ興行によるホームゲームの開催日数

- ・ホームゲーム開催日数の目安を、当市近隣自治体をホームタウンとするクラブの今季日程をもとに示します。
- ・ハンドボールやバレーボールでは、検査要項を満たす複数のアリーナをホームアリーナと設定しています。
- ・全てのスポーツ興行について、通常のリーグ戦に加え、成績上位クラブによるプレーオフやチャンピオンシップ、およびカップ戦などで試合数が増加する可能性があります。

リーグ		ホームゲーム開催日数（目安）						アリーナ確保に関する レギュレーション項目		
		総数	ホームアリーナ		ホームアリーナ以外					
			平日	土日祝	平日	土日祝				
Bリーグ（バスケットボール） レギュラーシーズン	B1	30	5	20	1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームゲームの80%以上をホームアリーナで開催 ・ホームアリーナ以外で開催する場合、入場可能数は2,000人以上である必要がある。 			
	B2	30	4	16	0	10				
	B3 ※1	26	3	12	0	11				
資料：レギュレーション等								Bリーグ規約・規定集（2024-25） 、 B3リーグ規約		
リーグH（ハンドボール） レギュラーシーズン	男子	13	1	12	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・原則8割の試合をホームアリーナで実施。やむを得ない事情がある場合には6割でも可 			
	女子	15	2	13	—	—				
資料：レギュレーション等								日本ハンドボールリーグ新規加盟要項		
SV・Vリーグ (バレーボール) レギュラーシーズン	SVリーグ	男子	22	0	16	0	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームゲームの80%以上は、検査要項を満たすホームアリーナ（3,000名以上等）での開催 		
		女子	22	0	16	0	6			
	Vリーグ	男子	14	0	8	0	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームゲームの60%以上は、検査要項を満たすホームアリーナ（750名以上等）で開催※2 		
		女子	14	0	8	0	6			
資料：レギュレーション等								SV・Vリーグクラブライセンス交付規則 、 クラブSVライセンス交付規則		
Tリーグ（卓球） レギュラーシーズン	男子	12	0	4	0	8	<ul style="list-style-type: none"> ・レギュレーションに条件の記載なし。 			
	女子	12	0	4	0	8				

※1：参考値 ※2：2027-28シーズンまでにレギュレーション項目を満たさなければならない

参考 | 2022年1月～12月 音楽・ステージ公演開催実績 (2,500～5,000人)

名称	収容人数	開催日数
ホール・劇場・ライブハウス	平均値：86 中央値：45	
Zepp Namba	2,513	188
日立市池の川さくらアリーナ	2,642	2
大阪フェスティバルホール	2,700	210
グランキューブ大阪メインホール	2,754	80
Zepp Osaka Bayside	2,801	230
ユナイテッド・シネマ アクアシティお台場	2,920	4
Zepp Haneda(TOKYO)	2,925	310
愛媛県県民文化会館 メインホール (旧ひめぎんホール)	3,000	11
愛知県芸術劇場大ホール	3,000	155
神戸ポートピアホテル 大輪田の間	3,000	4
河口湖ステラシアター	3,003	22
京都市円山公園音楽堂	3,010	1
名古屋国際会議場センチュリーホール	3,012	142
TACHIKAWA STAGE GARDEN	3,018	87
チームスマイル豊洲PIT	3,103	168
TOKYODOME CITY HALL	3,190	122
NHKホール	3,742	45
キラメッセぬまづ 多目的ホール	4,620	6
京都パルスプラザ 大展示場	4,750	2
アスティくしま多目的ホール	5,000	3
沖縄コンベンションセンター大展示棟	5,000	5

名称	収容人数	開催日数
アリーナ・体育館	平均値：4 中央値：2	
ひたちなか市総合運動公園 総合体育館	2,536	11
日立市池の川さくらアリーナ	2,642	2
横浜武道館	3,000	2
藤沢市秋葉台文化体育館	3,000	1
松江市総合体育館	3,003	3
アリーナ立川立飛	3,275	1
大田区総合体育館	3,300	1
岡山市総合文化体育館	3,500	1
春日部市総合体育館（ウイング・ハット春日部）	3,584	3
片柳アリーナ	4,000	4
ゼビオアリーナ仙台	4,009	17
国立代々木競技場 第二体育館	4,037	5
愛知工業大学体育館	4,100	1
よつ葉アリーナ十勝（帯広市総合体育館）	4,310	2
グリーンアリーナ神戸	4,852	1
シーハットおおむら メインアリーナ	5,000	1

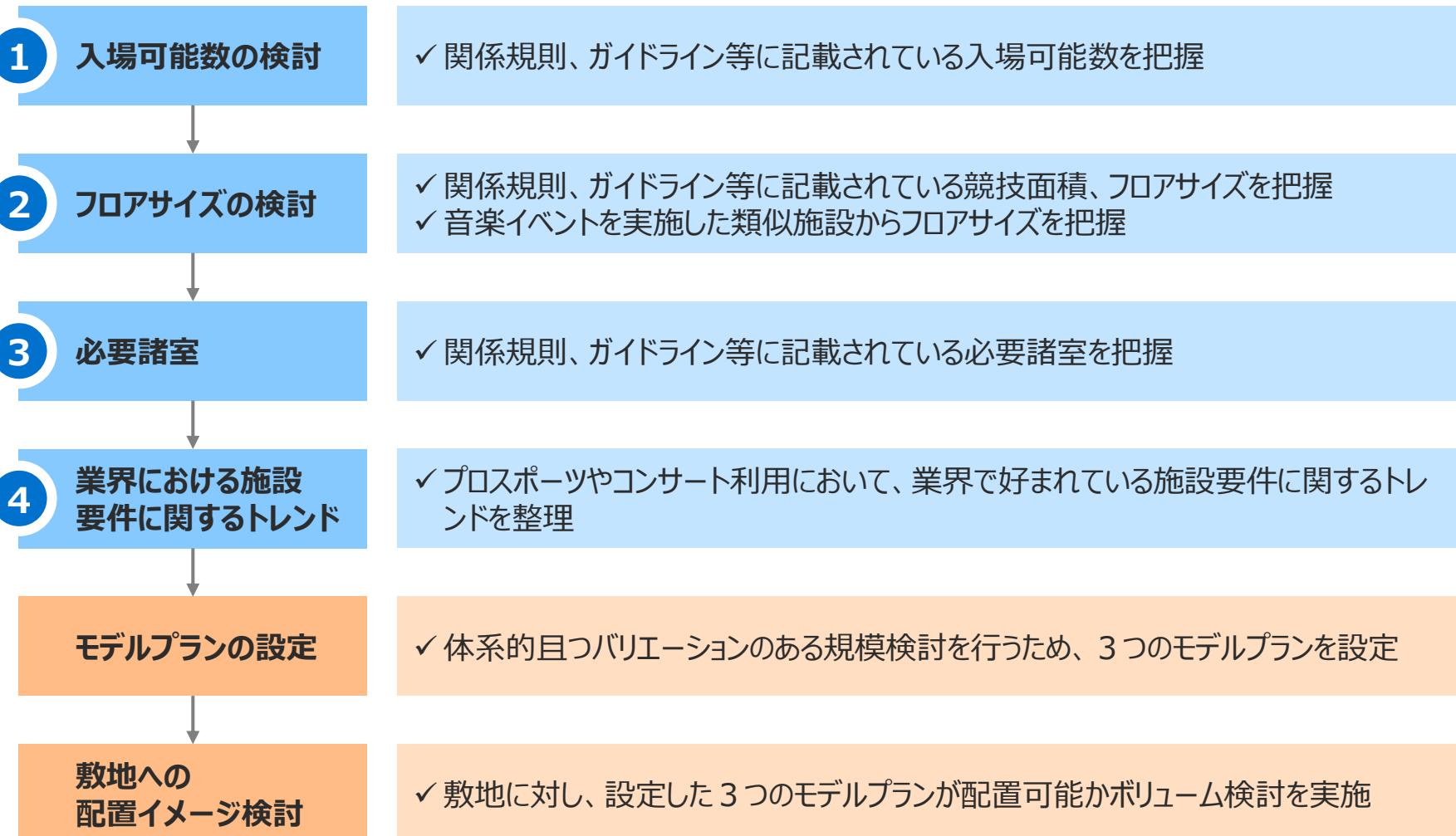
名称	収容人数	開催日数
野外・公園	平均値：13 中央値：2	
波の上うみそら公園	2,600	2
淡路夢舞台野外劇場	3,000	1
大阪城野外音楽堂	3,002	44
京都市円山公園音楽堂	3,010	1
日比谷公園野外大音楽堂	3,119	67
こども自然公園野球場	4,000	1
みやまコンセル 野外音楽堂	4,000	2
桃配運動公園	4,000	3
しらさかの森スポーツ公園	4,100	2
札幌芸術の森 野外ステージ	5,000	8
秩父ミューズパーク 野外ステージ	5,000	8

出所 | 2023ライブエンタテインメント白書／ライブエンタテインメント調査委員会を基に日本総研が作成

3. 施設計画について

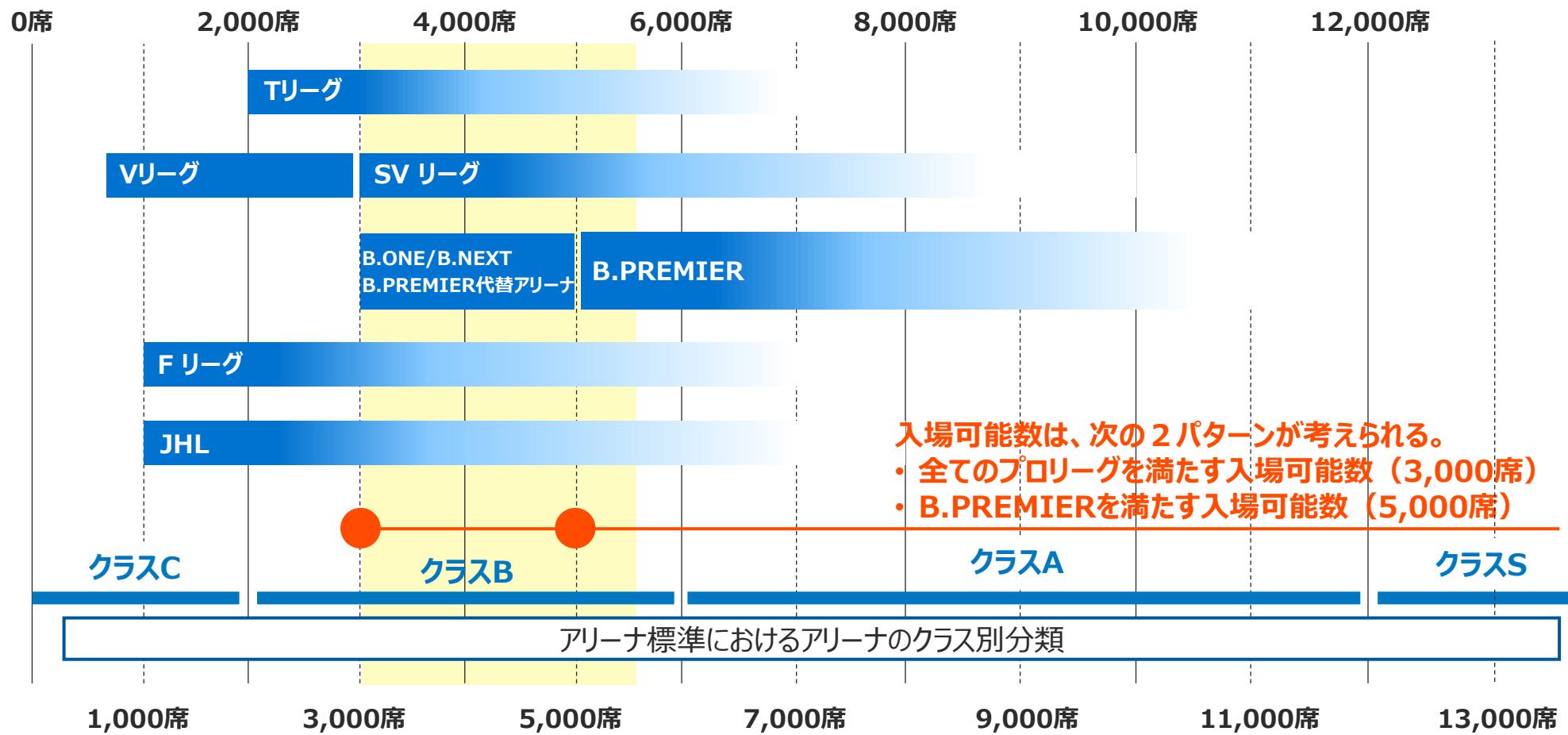
(1) モデルプランの設定に向けた検討フロー

- 令和7年3月に策定した基本方針において、多目的アリーナは複数のモデルプランを基に検討することを示しました。
- 関係規則、ガイドライン等の整備条件を踏まえたモデルプランの設定は、次の①～④の手順に基づき進めます。



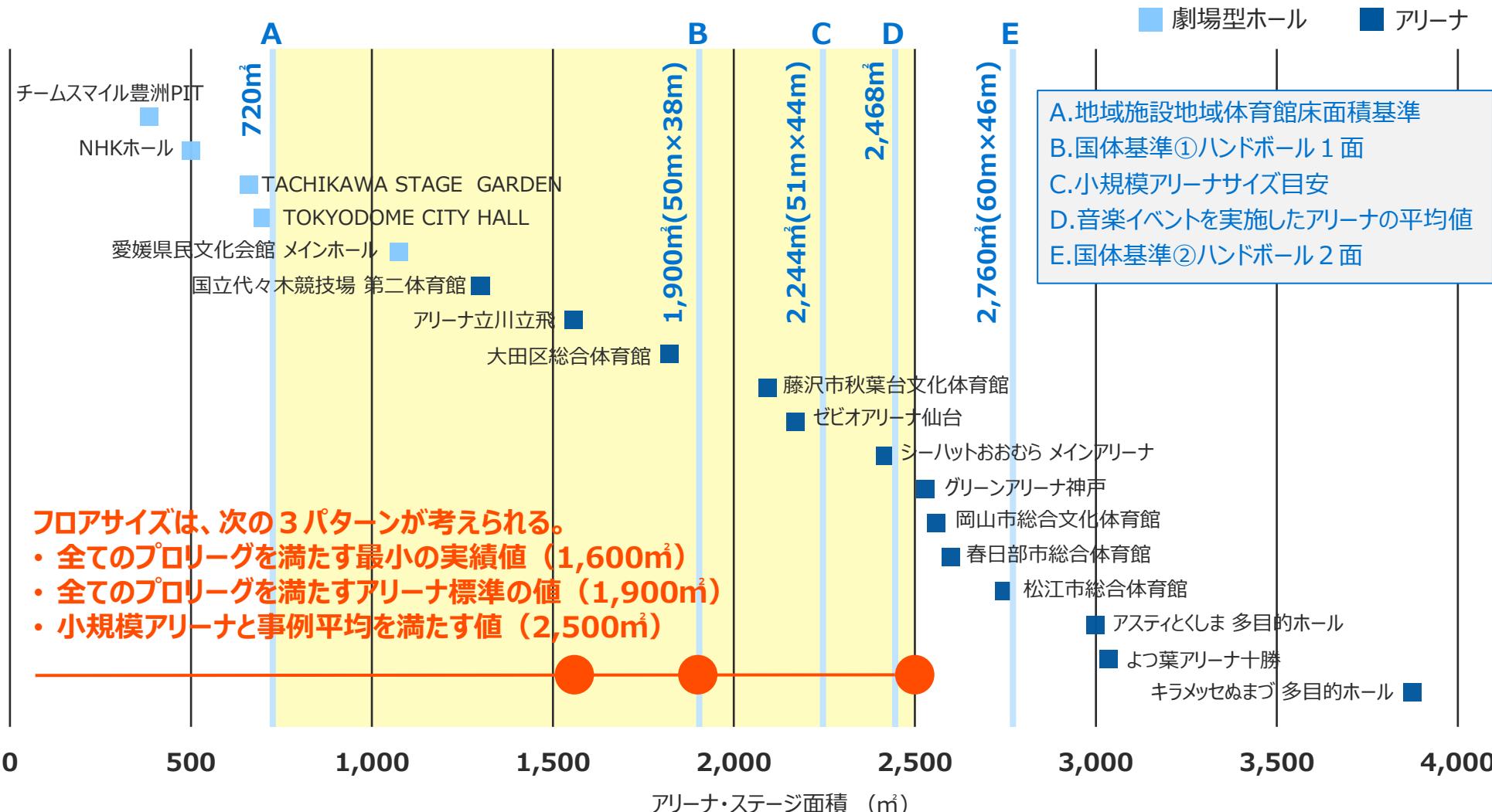
①入場可能数の設定範囲

- 全ての主要なスポーツ興行を開催するには、入場可能数3,000席以上の確保が必要です。
- 2026年10月からシーズンスタートするB.PREMIERのライセンスを得るために、入場可能数5,000席以上の確保が必要となります。（2024年12月理事会において、2026-27のB.PREMIERに参入する合計26クラブを最終決定しました。）



②フロアサイズの設定範囲

- 音楽イベントを実施したアリーナ及び劇場型ホールのアリーナ・ステージ面積を示します。
- フロアサイズを設定する場合、A～Eの設置値が目安になります。



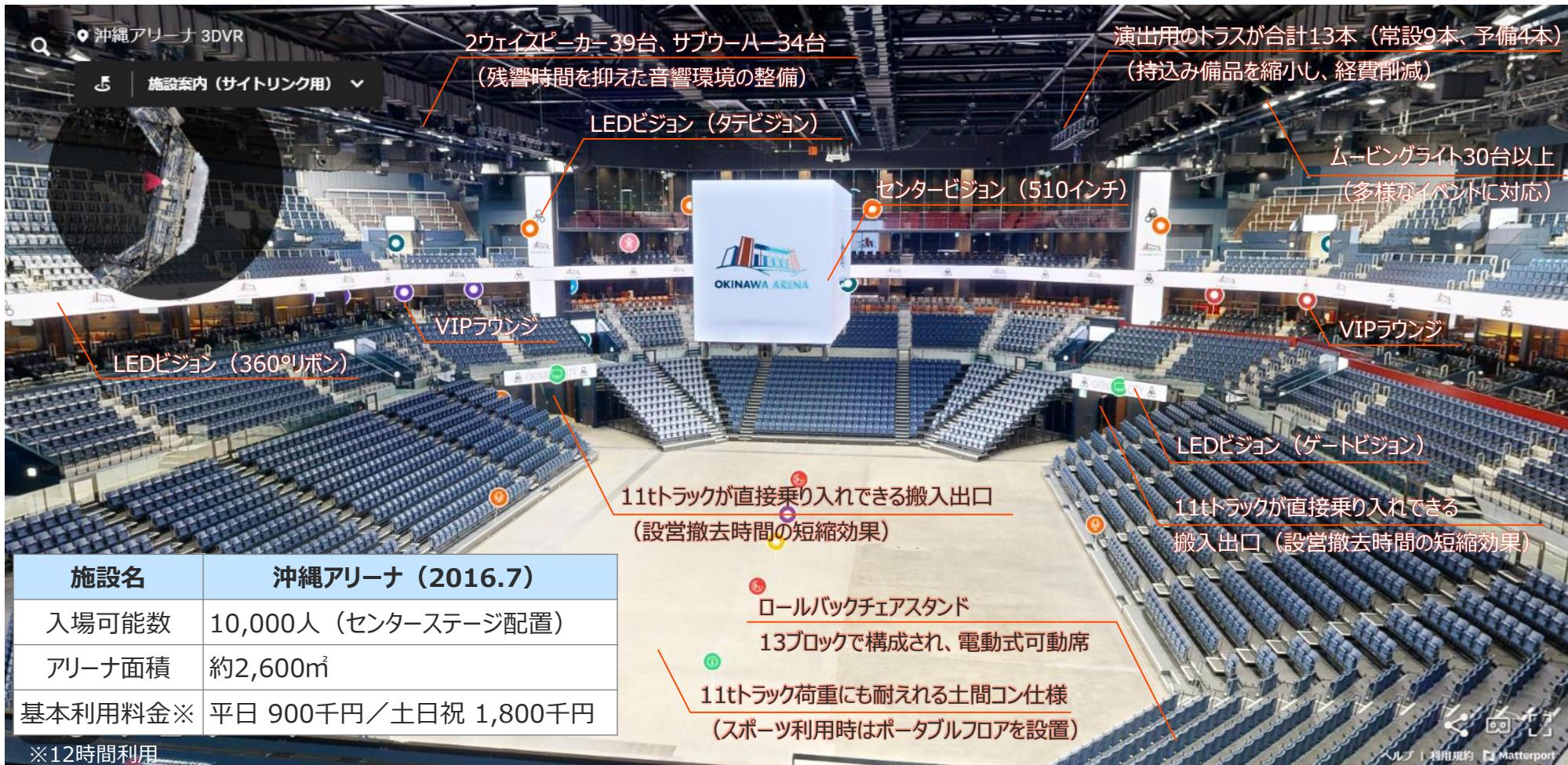
③必要諸室

- 各スポーツ興行の関係規則、ガイドラインより、必要諸室に関する情報を記載しています。
- バレー・ボール及びバスケットボールでは、試合コートで当日練習不可の場合、別途練習コート（サブアリーナ）を確保する必要があります。
- バレー・ボール及びバスケットボールのホームアリーナ検査要項を満たすことで、すべての競技の必要諸室を確保できます。

競技	必要諸室	関係規則、ガイドライン等	作成者
卓球	<ul style="list-style-type: none">練習コート（2面、5m×10m）チーム用更衣室（シャワー・トイレ付）、マッサージルーム、審判用更衣室、その他更衣室主催者用諸室、来賓用諸室、メディア用諸室、ブリードキャスター用諸室、演出進行スペース、競技進行スペーストイレ（対客席数比2%）、授乳室、医務室、ドーピングコントロール室、選球エリア、各種設備運用調整室	TRIAGE規約・規定集	一般社団法人TRIAGE
バレー・ボール	<ul style="list-style-type: none">練習コート（1面、サブアリーナまたは車で30分以内の練習場）チーム用更衣室（シャワー・トイレ付）、審判用更衣室主管者用諸室、来賓用諸室、メディア用諸室、ブリードキャスター用諸室、当日券売り場、（ラウンジ、スイート）トイレ（対客席数比2%）、医務室、ドーピングコントロール室、各種設備運用調整室	SVリーグ/Vリーグ ホームアリーナ検査要項[2024-30シーズン用]	一般社団法人SVリーグ
バスケットボール	<ul style="list-style-type: none">練習コート（1面、サブアリーナまたは車で30分以内の練習場）チーム用更衣室（シャワー・トイレ付）、審判用更衣室、その他控室主管者用諸室、メディア用諸室、ブリードキャスター用諸室、当日券売り場（ラウンジ、スイート）トイレ（対客席数比2%必須）、医務室、ドーピングコントロール室、各種設備運用調整室	ホームアリーナ検査要項 2026-27シーズンB.PREMIER用	公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ
フットサル	<ul style="list-style-type: none">チーム更衣室（温水シャワー付）、審判室、本部室医務室、警察消防控室、カメラマン室、放送中継用ブース、ドーピングコントロール室、入場券売り場、場内放送設備リーグ・クラブ旗の掲揚設備	日本フットサルリーグ 要項	一般財団法人日本フットサル連盟
ハンドボール	<ul style="list-style-type: none">チーム更衣室（温水シャワー付）、レフェリー更衣室、オフィシャルミーティング室、運営役員控室場内放送設備、その他諸室リーグ・クラブ旗掲揚の設備	日本ハンドボールリーグ新規加盟要項	一般社団法人日本ハンドボールリーグ

④業界における施設要件に関するトレンド | 多目的利用に対応した設備

- 沖縄アリーナは、Bリーグの公式試合や音楽コンサート、MICE利用に対応するため、2箇所の搬入出口の確保や可動席によるフレキシブルなアリーナが特徴です。
- また、各種ビジョンやVIPラウンジ等により、貸館による施設使用料以外の収益源となる設備を導入しています。



出所 | OKINAWA ARENA DISCOVER (Matterport)

④業界における施設要件に関するトレンド | 音楽コンサート利用に対応した設備

- ・ ぴあアリーナMMは、音響設備や照明設備の持込みを原則としており、多様な機材の設置に対応できるよう天井部の吊りフックが充実しています。
- ・ Kアリーナ横浜は、音楽コンサートを開催するための設備は全て備えつけられており、利用者が負担すべき設備の調達から設置撤去までの費用が縮減できることから、基本利用料金を高い価格に設定していると言われています。

施設名	ぴあアリーナMM (2020.7)
入場可能数	10,057人 (立見時12,141人)
アリーナ面積	3,899.14m ²
基本利用料金	平日 4,000千円／土日祝 6,250千円

施設名	Kアリーナ横浜 (2023.9)
入場可能数	20,033人
アリーナ面積	- m ²
基本利用料金	非公表 (ぴあアリーナMMの基本利用料金よりも高い価格に設定)



出所 | ぴあアリーナMM (ぴあ株式会社)



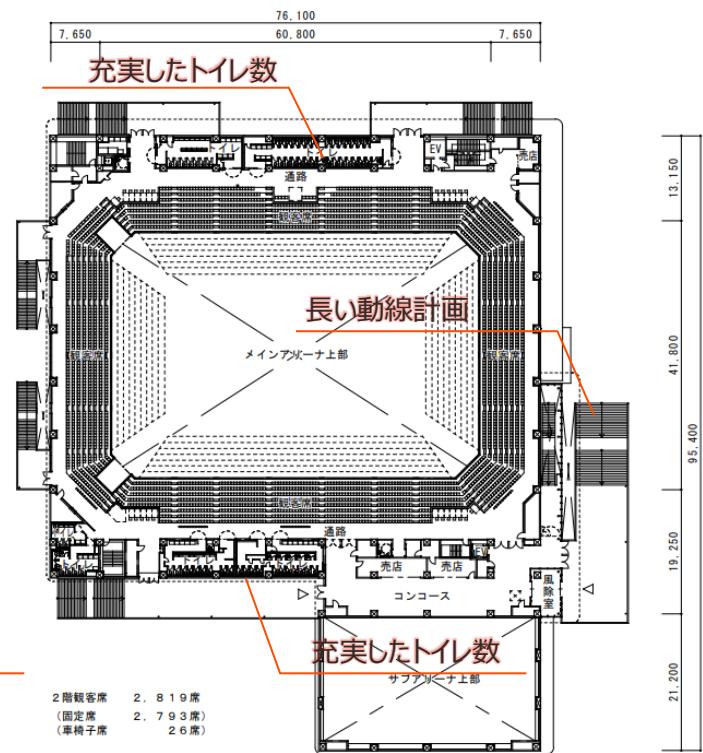
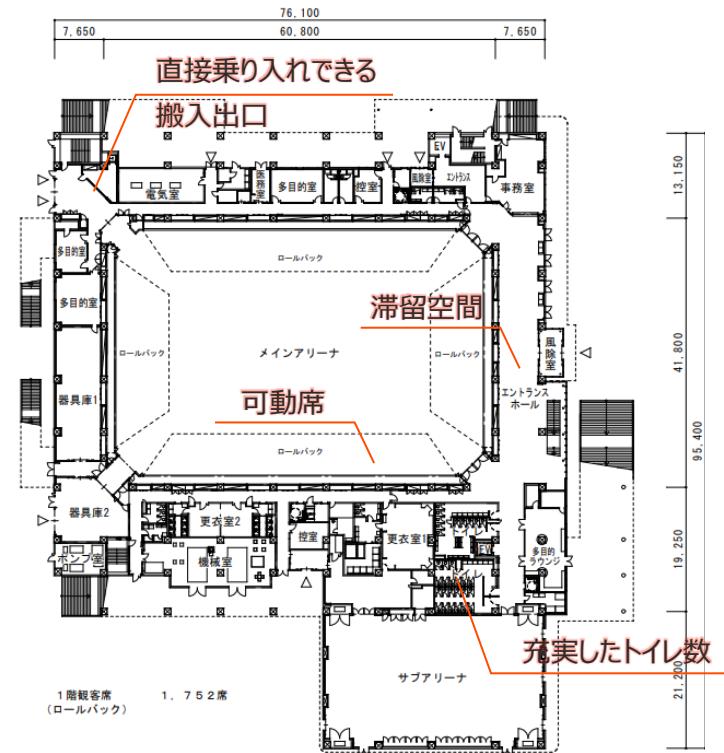
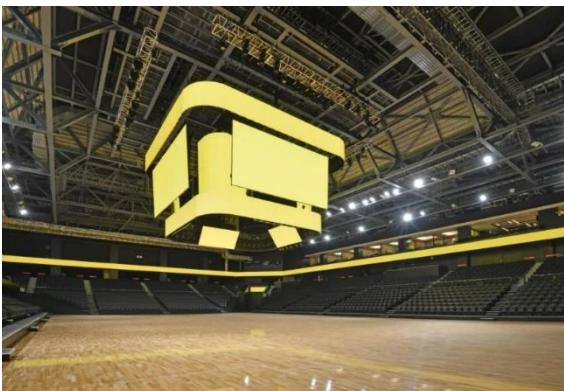
出所 | Kアリーナ横浜 (株式会社Kアリーナ横浜マネジメント)

④業界における施設要件に関するトレンド | Bリーグホームアリーナに対応した設備

- ・ オープンハウスアリーナ太田は、主にBリーグの公式試合の開催に対応するため、一度に大多数の来場者が利用することを想定し、長い動線計画や滞留空間、十分なトイレの数を確保しています。
 - ・ また、避難所拠点として、災害時に1,000人程度の避難者を受け入れることができ、インフラ遮断時にも3日間程度の施設機能を維持できる設備を導入しています。

施設名	オープンハウスアリーナ太田（2023.4）
入場可能数	5,000人
アリーナ面積	約2,140m ²
基本利用料金※	スポーツ行事 57,600円 スポーツ行事以外 230,400円

※12時間利用



出所 | オープンハウスアリーナ太田（太田市）

(2) モデルプランの設定 | 規模検討に関する視点からの整理

- 施設の利用用途として、主にプロスポーツ利用とコンサート利用が挙げられ、その方向性について3つのパターンに分けて整理しました。
- 規模検討に関する各視点からのパターンを踏まえ、各施設の規模が最小と最大になる組合せを設定しました。



パターン	①スポーツ利用特化型のアリーナ		②劇場型のアリーナ		③兼用利用型のアリーナ	
概要・あり方	「する」スポーツに加えて、「みるスポーツ」の環境を取り入れたスポーツ利用のみに特化した施設		O型観客席にすることで、スポーツ観戦に最適な囲み感や臨場感のある観戦環境を整備		可能な限りフロアサイズを縮小し、固定の観客席を増やしてプロスポーツやコンサートの「みる」環境を充実化させた劇場型の施設	
規模	最小	最大	最小	最大	最小	最大
入場可能数	3,000人	5,000人	3,000人	5,000人	3,000人	5,000人
フロアサイズ	1,900m ²	1,900m ²	1,600m ²	1,600m ²	2,500m ²	2,500m ²
必要諸室	サブアリーナなし	サブアリーナなし	サブアリーナなし	サブアリーナなし	サブアリーナなし	サブアリーナなし
客席形状	O型	O型	馬蹄型	馬蹄型	U型	U型
ステージ	仮設	仮設	常設	常設	常設	常設

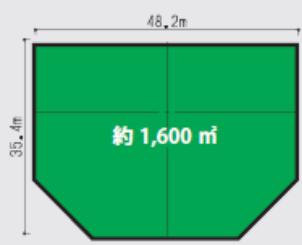
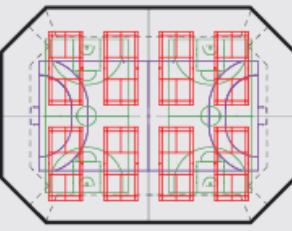
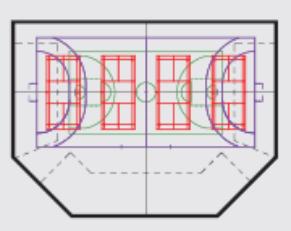
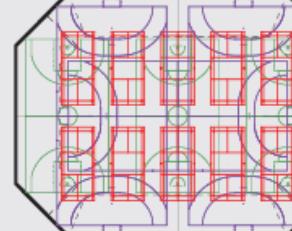
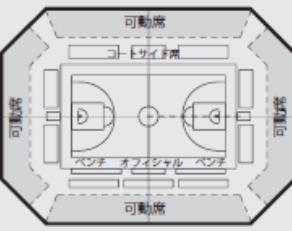
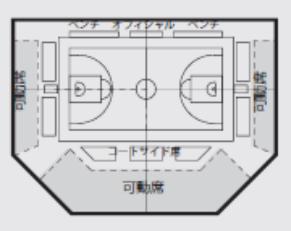
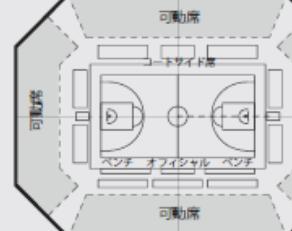
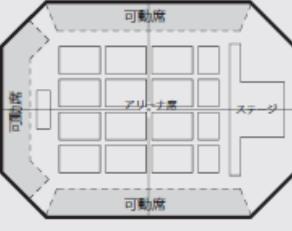
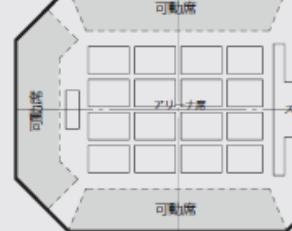
(2) モデルプランの設定 | 配置検討（ボリューム検討）の候補

- 体系的且つバリエーションのある規模検討を行うため、次の3つのモデルプランを配置検討の候補として設定しました。

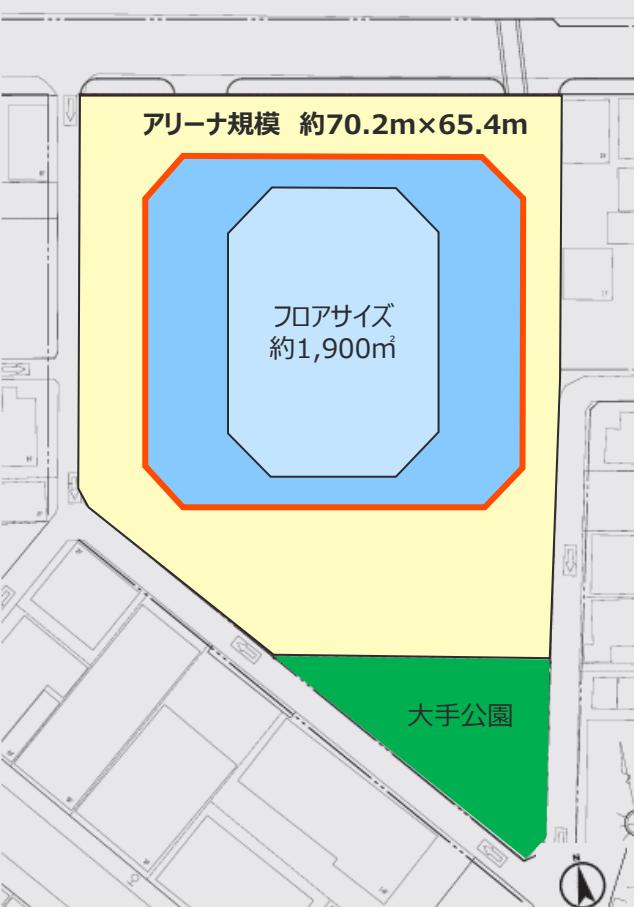
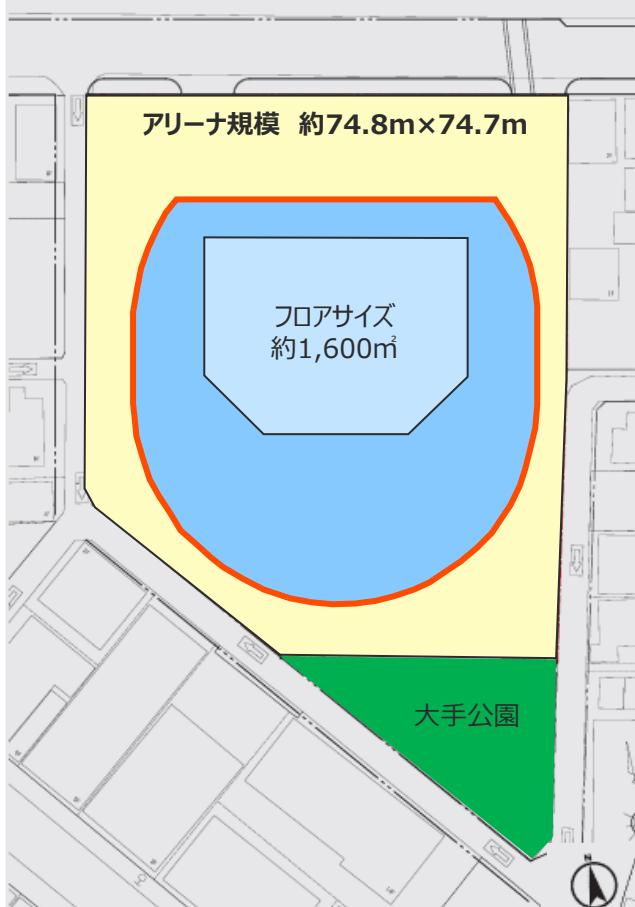
パターン	①スポーツ利用特化型のアリーナ		②劇場型のアリーナ		③兼用利用型のアリーナ	
概要	「する」スポーツに加えて、「みるスポーツ」の環境を取り入れたスポーツ利用のみに特化した施設 口型観客席にすることで、スポーツ観戦に最適な囲み感や臨場感のある観戦環境を整備		可能な限りフロアサイズを縮小し、固定の観客席を増やしてプロスポーツやコンサートの「みる」環境を充実化させた劇場型の施設		スポーツやコンサート利用等の多目的利用に対応した施設（仮設の座席割合が多い）	
モデルプラン	①－1	①－2	②－1	②－2	③－1	③－2
規模	最小	最大	最小	最大	最小	最大
入場可能数	3,000人	5,000人	3,000人	5,000人	3,000人	5,000人
フロアサイズ	1,900m ²	1,900m ²	720m ²	1,600m ²	2,500m ²	2,500m ²
客席形状	口型	口型	馬蹄型	馬蹄型	U型	U型
ステージ	－	－	常設	常設	常設	常設
レイアウトイメージ						
配置検討の候補	●		●		●	

※上記のレイアウトイメージ図は、多目的アリーナのバリエーションのある配置検討を行うために作成したものであり、建物のレイアウトや座席、ステージなどの記載内容は確定したものではありません。

参考 | フロアサイズと対応可能な競技種目の面数

項目	①スポーツ利用特化型のアリーナ	②劇場型のアリーナ	③兼用利用型のアリーナ
モデルプラン フロアサイズ ※各面積参照は	 <p>約 1,900 m²</p>	 <p>約 1,600 m²</p>	 <p>約 2,500 m²</p>
市民スポーツ 利用時 参考プラン	 <ul style="list-style-type: none"> コートサイズ 40m×20m ハンドボール : 1面 フットサル : 1面 コートサイズ 28m×15m バスケット : 2面 コートサイズ 18m×9m バレー・ボール : 2面 コートサイズ 13.4m×6.1m バドミントン: 8面 	 <ul style="list-style-type: none"> コートサイズ 40m×20m ハンドボール : 1面 フットサル : 1面 コートサイズ 28m×15m バスケット : 1面 コートサイズ 18m×9m バレー・ボール : 1面 コートサイズ 13.4m×6.1m バドミントン: 4面 	 <ul style="list-style-type: none"> コートサイズ 40m×20m ハンドボール : 2面 フットサル : 2面 コートサイズ 28m×15m バスケット : 3面 コートサイズ 18m×9m バレー・ボール : 3面 コートサイズ 13.4m×6.1m バドミントン: 10面
プロスポーツ 利用時 参考プラン	 <ul style="list-style-type: none"> コートサイズ 28m×15m バスケット : 1面 可動席 席数 : 約 1,200 席 コートサイド席 席数 : 約 400 席 	 <ul style="list-style-type: none"> コートサイズ 28m×15m バスケット : 1面 可動席 席数 : 約 1,000 席 コートサイド席 席数 : 約 1,000 席 	 <ul style="list-style-type: none"> コートサイズ 28m×15m バスケット : 1面 可動席 席数 : 約 1,900 席 コートサイド席 席数 : 約 400 席
コンサート 利用時 参考プラン	 <ul style="list-style-type: none"> ステージサイズ 24m×10m 可動席 席数 : 約 900 席 アリーナ席 席数 : 約 1,100 席 	 <ul style="list-style-type: none"> ステージサイズ 24m×10m 可動席 席数 : 約 1,000 席 アリーナ席 席数 : 約 700 席 	 <ul style="list-style-type: none"> ステージサイズ 24m×10m 可動席 席数 : 約 1,400 席 アリーナ席 席数 : 約 1,200 席

(3) 敷地への配置イメージ検討 | モデルプランごとの敷地へのボリューム検討

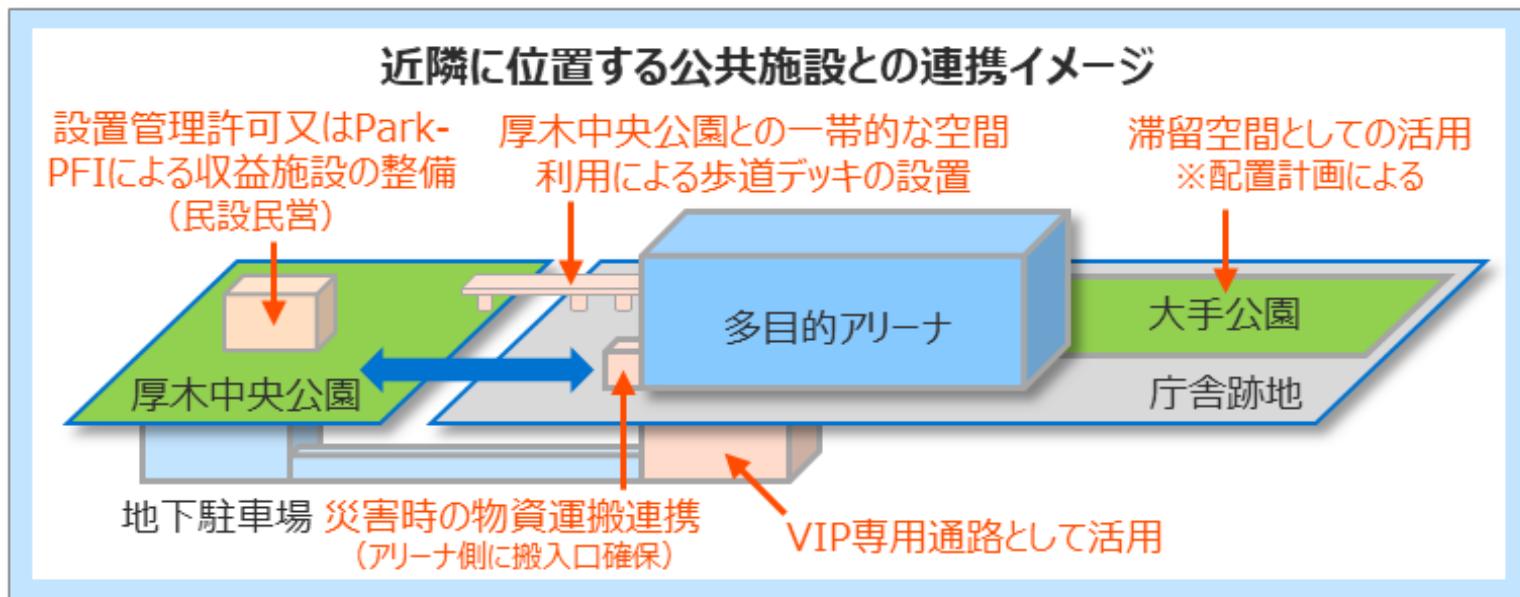
①スポーツ利用特化型のアリーナ 3,000席・フロアサイズ約1,900m ²	②劇場型のアリーナ 5,000席・フロアサイズ約1,600m ²	③兼用利用型のアリーナ 5,000席・フロアサイズ約2,500m ²
		

※上記の配置イメージ図は、本庁舎敷地跡地に対するモデルプランごとのボリューム検討を行うために作成したものであり、建物の配置や敷地内の駐車場、大手公園との連携などの記載内容は確定したものではありません。

4. 防災機能及び厚木中央公園等に係る連携の方向性について

(1) 防災機能及び厚木中央公園等に係る連携の方向性について

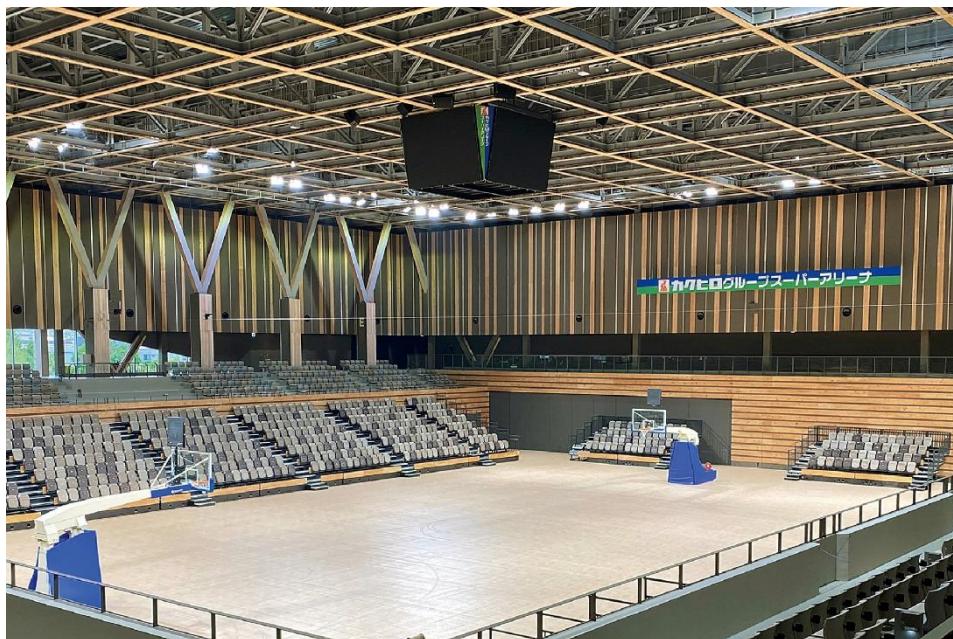
- 多目的アリーナは集客機能を有するものであり、対象地の敷地内だけでなく、その周辺エリアも含めることで、日常時の賑わい創出又は災害時の防災機能の強化等、周辺エリア一帯の価値を向上させることができます。
- 具体的には、今後の検討によりますが、次の図に示す連携イメージのように、複数の事業手法を組み合わせることにより、収益施設の整備、動線の利便性を高めることによる一帯的な空間利用、災害時の動線確保、VIP動線の確保等、多目的アリーナと周辺エリアにある公共施設のシナジー効果が期待できる連携方法が想定されます。



※上記の連携イメージ図は、多目的アリーナと周辺エリアにある公共施設のシナジー効果を高めるための連携方法を検討するために作成したものであり、Park-PFIや歩道デッキの設置等の記載内容は確定したものではありません。

(2) 事例 | カクヒログループスーパーアリーナ（青森市総合体育館）

- カクヒログループスーパーアリーナは、青森市民体育館の老朽化を受け、約3km離れた遊休地（県・市・市公社保有）にDBOとPark-PFIを併用して整備・役割移転されました。
- 事業敷地は元々「指定緊急避難場所」に指定されており、機能継続・強化のために、アリーナは整備後に「指定避難所」に指定されました。
- 要求水準書では、「青森市地域防災計画にて、アリーナを『指定避難所』に、公園エリアを『指定緊急避難場所』に位置付ける予定である」ことが記載され、事業者に初動対応と防災訓練への協力を要求しています。
- 現在、厚木中央公園は指定避難所及び物資供給・集積拠点に指定されており、周辺エリアに必要な災害対応力の強化を多目的アリーナと一体となって検討する必要があります。



避難者を主に受け入れるメインアリーナの様子

整備運営事業 要求水準書の記載（一部抜粋）

①初動対応業務

(ア) 市は、青森市地域防災計画において、青森市アリーナを「指定避難所」に、青い森セントラルパーク（青森市アリーナを含む）、東側広場及び西側広場を「指定緊急避難場所」に位置付ける予定であることから、事業者は、（中略）大規模な災害が発生した場合、本施設利用者の安全を確保するとともに、市が青森市アリーナへの避難所開設を決定した場合は、青森市アリーナを避難所として利用できるよう初動対応を行うこと。

(イ) 事業者は、災害が開館時間外に発生した場合においても、市職員が速やかに来館し、施設の安全確認及び施設の開錠を行うことができるよう体制を整えること。

（略）

③防災訓練への協力

(ア) 事業者は、市や地域団体等と連携して防災訓練を実施することと（中略）すること。

（後略）

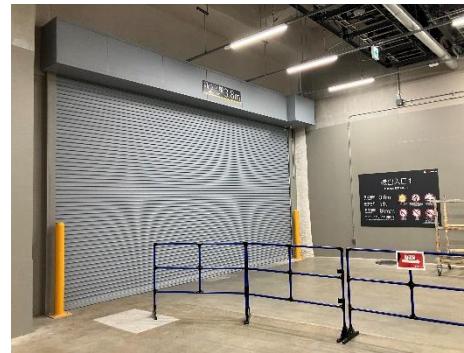
(2) 事例 | アリーナにおける防災設備の例

- アリーナは、災害時には支援物資の集積拠点等として活用されるため、市民の暮らしを守る防災設備の設置・保管が必要です。
- アリーナは、日常的に市民が集い、賑わいを生む施設であることから、一部の防災設備については、平常時にも災害時にも使えるというフェーズフリーの考え方を導入している事例もあります。

備蓄倉庫



トラックで出入り可能な
搬出入口



非常用電源



マンホールトイレ



- アリーナの利用者や周辺住民のための支援物資を保管します。
- 保管する備品の種類によって設置場所（屋内・屋外）は異なります。

- 大きな搬出入口と、十分な耐久性の床仕上げを採用して、トラックで直接物資をアリーナに搬入できる動線を確保しています。
- コンサート等の興行の設営にも便利な造りです。

- 停電時にはLPガス等を用いて発電し、施設の電源として使用します。
- 蓄電池や太陽光発電を組み合わせ、再生可能エネルギーを活用する技術も開発されています。

- 内部が下水とつながっており、災害時にはテントをかぶせてトイレとして利用ができます。
- 平常時はベンチとして利用されています。

出所 | IGアリーナ、さわやかアリーナ、埼玉スタジアム2002、さいたま市HP

参考 | 厚木中央公園等イベントとの連携について

- 厚木中央公園や厚木公園で開催されている市イベントは、市独自のコンテンツとして毎年多くの来場者を集め、まちのにぎわいを創出しています。
- 今後、多目的アリーナと連携することで、天候に左右されず、より快適で魅力的なイベントを実現し、新たな交流拠点としての可能性を検討します。

月	主なイベント	概要	概算来場者数
5月	厚木市縁のまつり（2日間）	ステージでの音楽演奏やダンス、子供向けイベント	32,000人
5月	HAPPY OUTSIDE BEAMS	モルックを中心とした野外イベント	3,000人
6月	建設フェスタ	建設業を知る！見る！楽しむ！イベント	3,000人
8月	鮎まつり（2日間）	市最大のイベント。1万発の大花火大会	330,000人
8月	厚木北地区盆踊り大会	厚木北地区の自治会合同による大盆踊り大会	3,000人
8月	あつぎジャズナイト（2日間）	日産や米軍のジャズバンドが出演（厚木公園）	5,000人
9月	あつぎD R E A M フェスタ	青年会議所主催の音楽やグルメ等のイベント	3,000人
9月	あつぎアーバンスポーツフェスティバル	BMXやスケボーの体験会。オリンピアンも参加	3,000人
10月	厚木オクトーバーフェスト（10日間）	地ビールの祭典。地元サンクトガーレンも出展	30,000人
11月	あつぎミュージックフェスティバル	市が誇る音楽の祭典。有名アーティストも参加	5,000人
11月	にぎわい爆発あつぎ国際大道芸（2日間）	雑技団など多数の芸人が全国から集結	100,000人
11月	あつぎウインターミネーション（～1月）	点灯式でフラダンスやコンサート（厚木公園）	3,000人

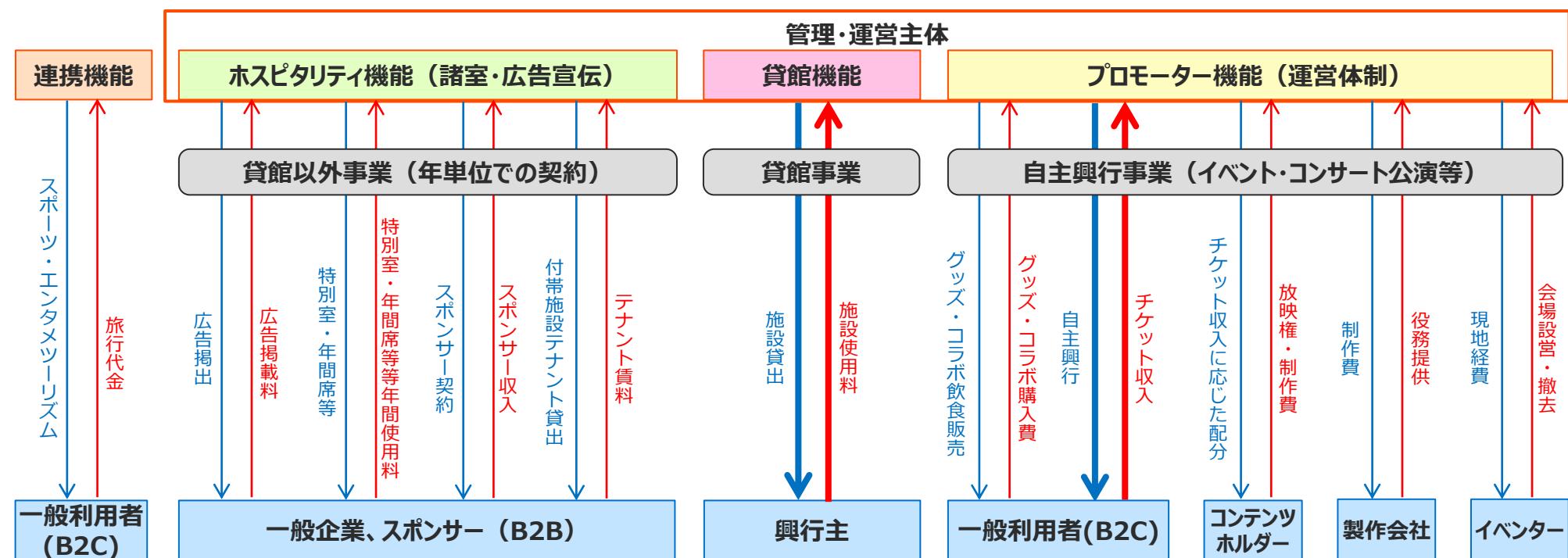
参考 | 厚木中央公園等イベントとの連携について



5. 事業手法の検討について

(1) アリーナのビジネスモデル

- ・スポーツ利用もコンサート利用も興行主と施設所有者が異なるため、基本的には貸館による事業が中心となります。
- ・一方で、施設所有者側において、貸館事業に加えて、ホスピタリティ機能を有すれば、一般企業やスポンサーとの貸館以外事業による収支が見込め、プロモーター機能を有すれば、コンサート公演に関する自主興行事業による収支が見込まれます。
- ・さらに、滞在時間を増やすためにイベント興行と連携して、スポーツ・エンタメツーリズムを展開するビジネスモデルも生まれ始めています。



(2) 主なアリーナ施設の事業方式

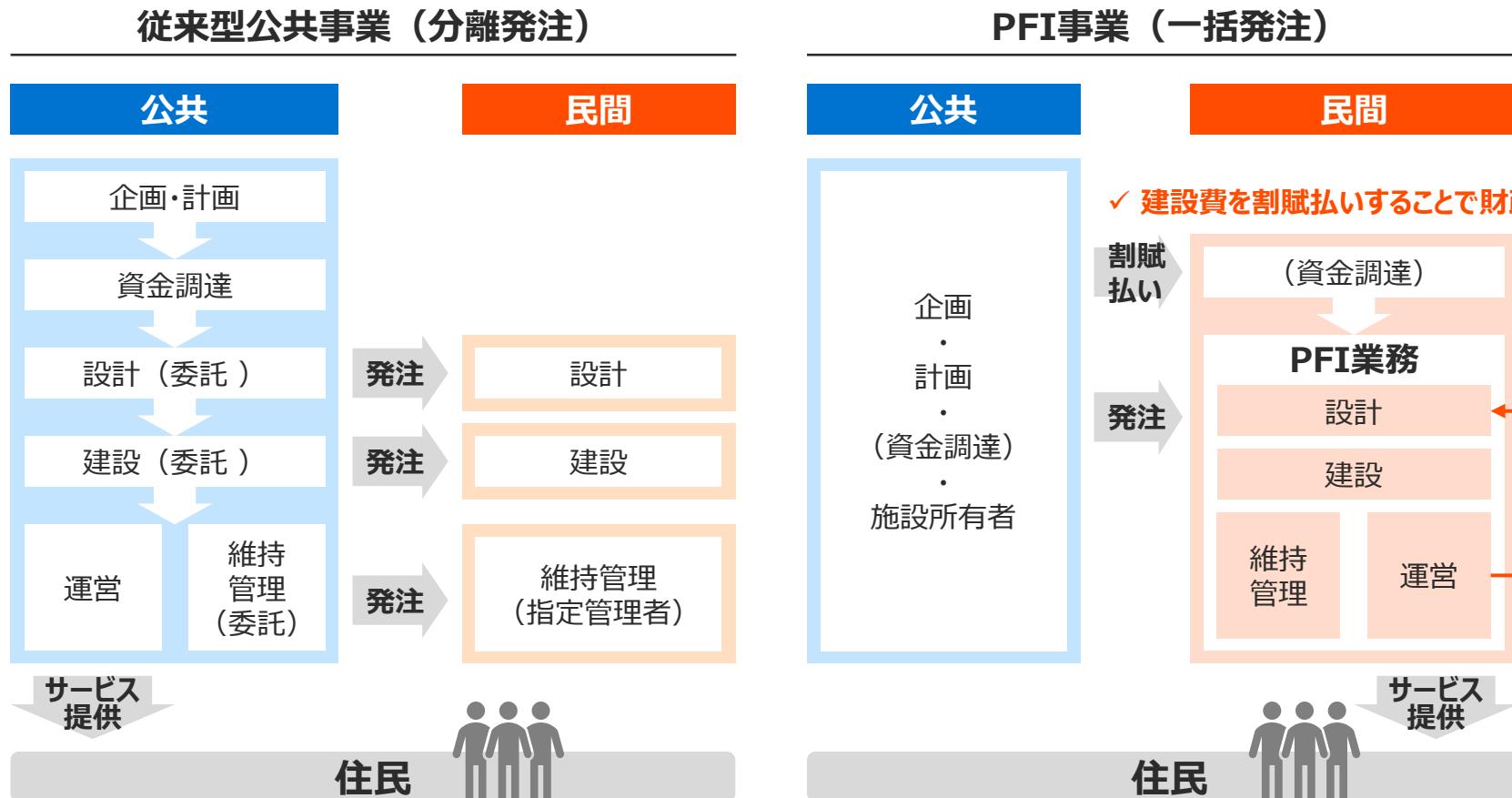
- 公の施設として整備され、指定管理者制度により運営されるアリーナ施設が大半を占めるなか、PFI事業による運営から民設民営でのアリーナ施設まで多岐にわたる事業方式による開発がされています。

事業方式	根拠法	事業期間※1	特徴	事例
従来発注 + 指定管理	地方自治法	3~7年程度	整備された公の施設の目的を効果的に達成するため、民間事業者に公の施設の管理を行わせる制度。	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄アリーナ（従来手法） SAGAアリーナ（従来手法） あなぶきアリーナ香川（設計コンペ+従来手法） 他多数
PFI方式 (BTO・BOT・BOO)	PFI法	10~30年程度	民間のノウハウや資金を活用して、公共施設等の事業化を行う制度。設計施工運営維持管理を一体化することで設計の段階から運営の視点を取り入れた設計施工が可能となるもの。	<ul style="list-style-type: none"> エスフォルタアリーナ八王子(BTO) ひがしんアリーナ(BTO) 横浜BUNTAI(BTO) 北里アリーナ富士(BTO) 秋田新県立体育馆(BTO) 他多数
コンセッション事業	PFI法	30年	利用料金の徴収を行う公共施設について、施設の所有権を公共が有したまま、施設の運営権を民間が有する制度。	<ul style="list-style-type: none"> 有明アリーナ(コンセッション) IGアリーナ(BT+コンセッション) 新秩父宮ラグビー場(BT+コンセッション) 等々力アリーナ(コンセッション) 富山市総合体育馆(Rコンセッション)
負担付寄附	地方自治法	45年	寄付金や出資等で資金調達を行い、整備後に行政に寄附し、寄附したもののが運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 横浜アリーナ ゼビオアリーナ仙台（改修）
PRE事業 (公的不動産の活用)	地方自治法 民法 借地借家法	10~50年未満	公有地において、民間事業者が事業として実施する制度。	<ul style="list-style-type: none"> 舞洲アリーナ（普通財産の貸付） ゼビオアリーナ仙台（定期借地） フラット八戸（定期借地） Kアリーナ横浜（公有地購入） GLIONアリーナ神戸（定期借地）

※1) 法令上、制限がなく、上表には事例ベースの事業期間を記載。

(3) 従来型公共事業とPFI事業

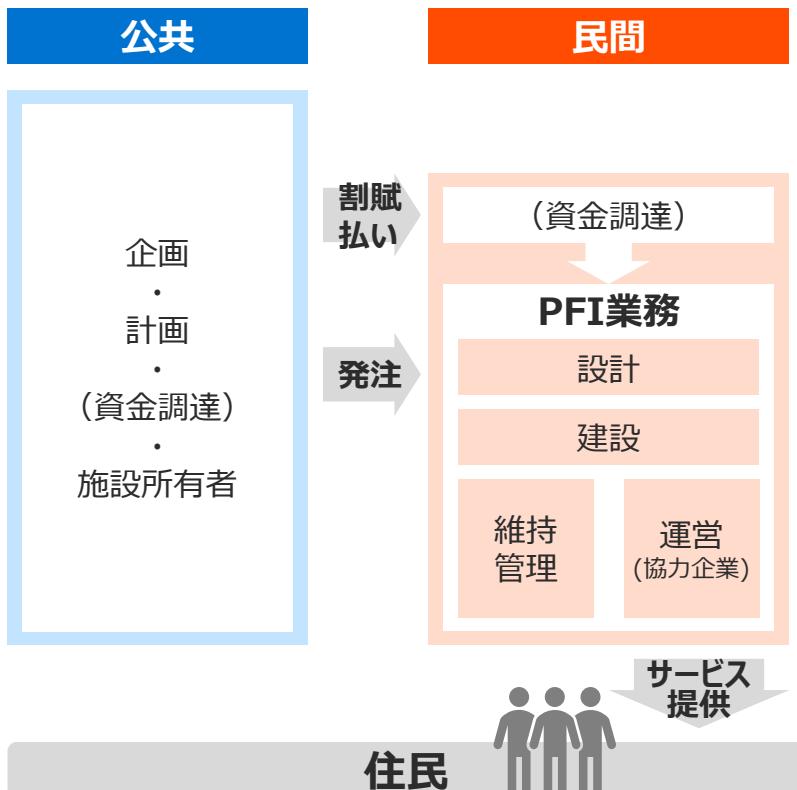
- ・ PFI、DBOは設計～運営が一括発注されます。自治体としては、個別の業務の効率性のみならず、事業全体としての効率性を期待しています。
- ・ 民間事業者は一括発注に対応して、事業提案を行うチーム組成（コンソーシアムの組成）が必要となります。そしてそのためには、地域内外のネットワークを構築する必要があります。



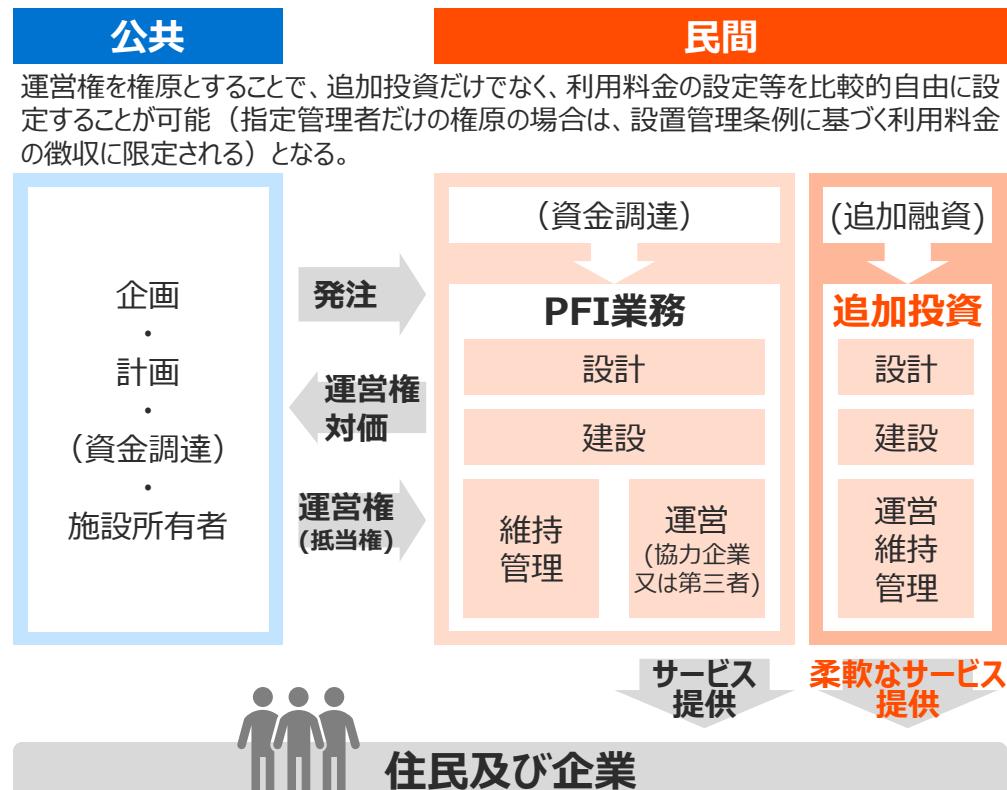
(4) PFI-BTO方式とBT+コンセッション方式の違い

- PFI事業（BTO方式）の場合は、対象業務のみを実施する民間事業体であることから、行政からのサービス対価や民間事業体の売上に基づく経営範囲に限定（プロジェクトファイナンスで実施するため、追加出資はなく、毎年のキャッシュの範囲で事業展開することになる）され、提案段階で、事業期間内における現実的な施策が提案されやすいです。
- BT+コンセッション方式の場合は、PFI法に基づき、運営権を物権として扱うことができ、SPCは、運営権に抵当権を設定し、それを担保に金融機関が追加融資を行うことができ、収益の最大化を図るための施策が提案されやすいです。

PFI事業（BTO方式）



PFI事業（BT+コンセッション方式）



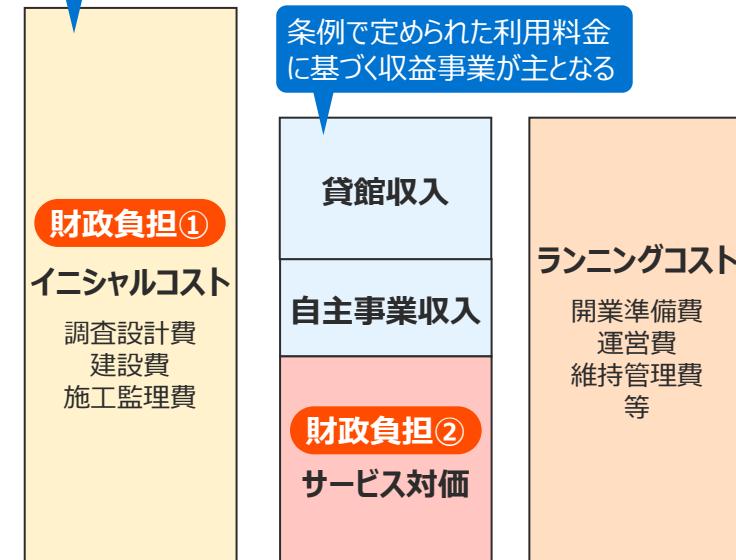
(5) BT+コンセッションにおける財政負担額のイメージ

- PFI-BTO方式とBT+コンセッション方式の財政負担額のイメージは次のとおりです。
- BT+コンセッション方式においては、イニシャルコストのみの財政負担で事業化が可能な独立採算型（この場合、右下図の財政負担②が不要となります）とサービス対価を要する混合型があります。

PFI事業 (BTO方式)

- 財政負担①は、施設整備に必要なイニシャルコスト
- 財政負担②は、事業の収入と支出の不足分をサービス対価としてPFI事業者に毎年支払うランニングコスト（指定管理料）
- 行政は上記①②の合計額を予定価格として設定

設定された予定価格の範囲で民間ノウハウを発揮し、施設整備を行う

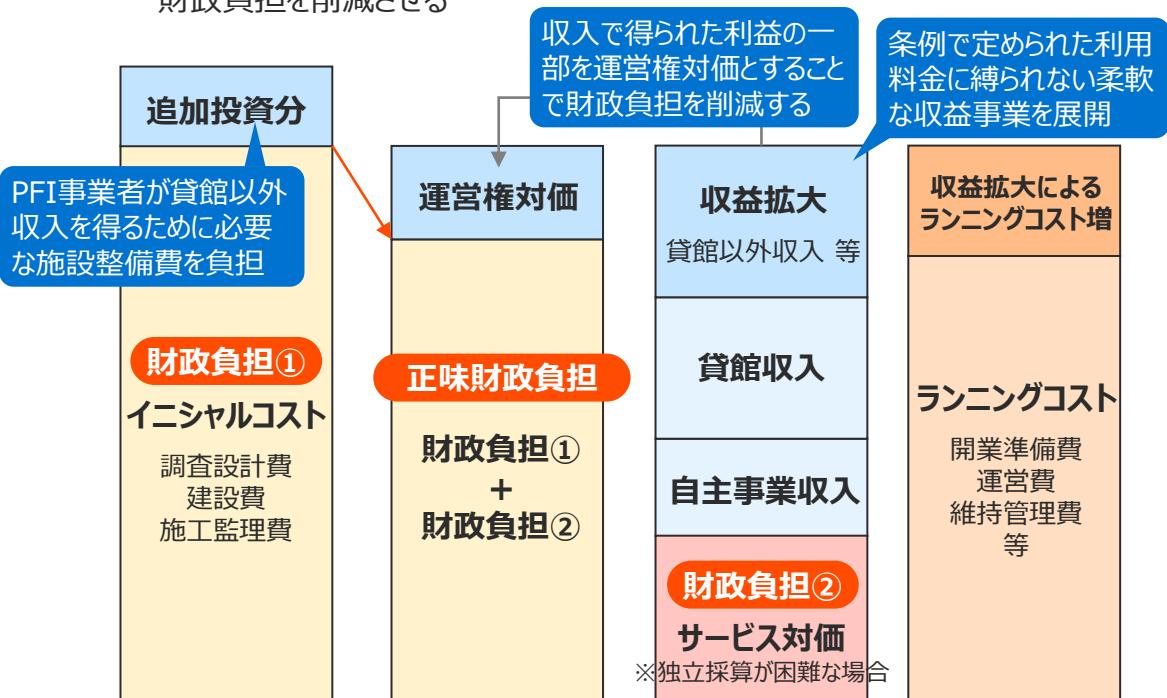


施設整備費

PFI事業者の収支

PFI事業 (BT+コンセッション方式)

- 財政負担①は、施設整備に必要なイニシャルコスト (BT部分)
- 財政負担②は、コンセッション事業として独立採算ができない場合、サービス対価としてPFI事業者に毎年支払うランニングコスト
- 貸館以外収入等による収益拡大が確保できることで、運営権対価を確保し、財政負担を削減させる



施設整備費

提案価格

PFI事業者の収支